



レナウン商事株式会社



★色 / タッチ

デザインが自慢です……

レナウン スポーツシャツ

深まりゆく秋とともにスポーツシーズンが訪れます。レナウンのスポーツシャツで若さを謳歌しましょう。秋は貴方の個性と魅力をひき出すレナウンスポーツシャツのシーズンなのです

遺憾な約束破棄

—東京オリンピック除外で国際ハンドボール協会公式声明—

さきのアテネでの国際オリンピック委員会、ハンドボールは最終的に一九六四年東京オリンピックからしりぞけられた。この事実は単にスポーツとしての見地から残念であるばかりでなく、日本の組織委員会側の約束破棄の結果であることを考えると、なお一層残念である。日本組織委員会がミュンヘンのIOC総会でオリンピック開催地決定の時にした約束——オリンピックの全種目を実施する、即ちハンドボールも行うという約束を守らなかったのは大いに失望した。この理解できぬ態度の急変で、FIH（国際ハンドボール協会）代表に対しアテネで行われた説明は——財政上の理由での説明であつたが——なんら意味のあるものではない。その説明は窮状をのがれるための口実にしかすぎない。

一九六〇年のリエージュでの総会のと きには、われわれは次のオリンピック大会にハンドボールが行なわれるだろうという希望を持っていた。この希望は、ハンドボールが〇〇%アマチュアの優れたチームゲームとしてようやく広く認識されてきたという事実よりも——一九三六年以来ハンドボールはオリンピックに参加する機会を持たなかったが——むしろ組織委員会がオリンピック憲章二二種目を実施するといった約束に根拠をもっていた。アテネでは突然それは一八種目の問題でしかなかった。そしてIOCは

日本に二〇種目を行なわせるよう義務づけた。そこにわれわれの驚きがあり、またこのような約束違反は非常に不快な印象を残した。 というのは、もし組織委員会が憲章二二種目を提案していたならば、IOCは何の反対もなしにハンドボールを認めたと間違いのないからである。日本が一八種目の提案を主張したので、IOCは二二種目を課することができず、二〇種目の妥協案の投票によってハンドボールを含む二種目がしりぞけられた。いままでのオリンピック大会でずっと行なわれてきたカヌーと近代五種は、日本側の近代五種をさく除きたい希望にかかわらず、採用されるチャンスを多く持っていた。

うならば、それはヨーロッパ大陸以外の大部分の国におけるハンドボールに対する関心の少さから由来している。そのことを認識しなければならぬ。したがってハンドボールが急速に確固たる地盤を持つようになり、そしてヨーロッパ以外の大陸の数多くの新しい国でポピュラーになるよう努力することがわれわれの責務である。この方法が将来ハンドボールが仲間はずれにとり残されぬ大きな基盤となる。われわれがつかさねばならぬ努力がたとえ長期にわたるものである。それだけ苦労に値するものである。何方国かの協会はすでにこの分野で相当活躍しており、それら協会はわれわれの感謝をうけるに値する。しかしその他の協会もこれに従って行くべきである。

アテネの決定から引き出せる教訓はスポーツの分野においても軽々しく人を信用するということは通用しないということである。というのはそうすることにやりひどいのはづれがありうるからである。そして一様にいえることはその決定は落胆の原因となるべきものでなく、反対に一九六八年のオリンピックにハンドボールが採用されるようにするためだけの努力をするための刺戟となるべきものである。

その努力の成果はひとえにIOCと組織委員の態度にかかっているものであるがわれわれの活動に大きく影響されるどころでもある。一人制競技であれ、七人制であれハンドボールを発展させるために全力をあげてつくさねばならぬ。 (国際ハンドボール協会広報第二十九号一九六一年七月より、仏語訳は渉外理事 境井)

「ハンドボール」

第七号目次

特報 「遺憾な約束破棄」	1
「国際ハンドボール協会公式声明」	1
五輪種目除外で声明発表	(2)
IOC投票で除外決定	(2)
声明書と公開質問状	(3)
理事長談話「組織委員に誠意なし」	(4)
解説といざなふ筋のおとる声明発表	(5)
全日本総合選手権	(6)
芝工大・大崎破り3連勝	(6)
大洋デパート健闘空し	(10)
総評・不慮の練習が勝因	(8)
全日本学生選手権	(18)
芝工大・堂々の4連勝	(18)
総評・優れた体力生かす	(18)
全日本高校選手権	(18)
男子・中京商3連勝飾る	(26)
総評・基礎の確かさを示す	(27)
インハイ・メモ帖から 岡村昭二	(29)
ヨーロッパ遠征リポート	(11)
ヨーロッパ遠征記①・高嶋 洵	(11)
欧州における審判の方法①	(21)
荒川清美	(21)
国際広報抜萃	(12)
強豪の敗因 ほん訳	(12)
第二ラインの欠如 境井秀三	(12)
国際展望	(12)
学生界秋の展望	(12)
実業団球界の話題	(25)
関東学生春季リーグ	(24)
芝工大、八連勝の偉業	(20)
関東学生春季リーグ	(20)
関東初優勝飾る	(21)
東海は中京大に倒勝ち	(22)
東西大学定期戦	(22)
ハンドボール選手の手	(14)
基礎体力 広田公一	(14)
スポーツ	(17)
渡辺大崎電氣社長	(17)
楽書	(16)
評帖	(16)
話題のチーム	(31)
表紙写真	(32)
表紙写真(全日本総合選手権男子決勝)	(32)
表紙写真(芝工大対大崎電氣の試合)	(30)

五輪種目除外で声明発表

組織委へ強硬な追求

火をつけた"出なかつた制限案"

日本ハンドボール協会は七月十二日夜、ハンドボールがオリンピック東京大会の種目からはずされた経緯が不明確であるとして、オリンピック東京大会組織委員会、日本オリンピック委員会（JOC）に対して声明書と公開質問状を出した。

「われわれはオリンピック種目からはずされても東京大会には協力するつもりで、ヨーロッパ各国の不满を押えてきた。しかしその結果はわれわれを裏切ることばかりだった……」報道関係者に囲まれた高嶋冽理事長の語気は鋭かった。

各国連盟から相次ぐ抗議

「ともかく、正直者がバカをみる結果になったのですよ」と高嶋理事長はいう。昨年末、日本のオリンピック委員会（JOC）と東京大会組織委員会は、東京大会の開催種目を18にする「日本案」をつくった。

そして、さく減された種目のなかに不幸にもハンドボールの名が見えた。近年発展の一途にあり、しかも世界最強といわれるルーマニアとの国際試合で好勝負を演じて自信を高めた日本のハンドボール界にとつ

て、この決定はショックだった。

そして、そのショックは、やがて大きな不満に変わった。

この変化は、ひとり日本のみならず、一九三六年のベルリン大会以来二十八年ぶりに聖火のもとで、ハンドボールが行なわれるという希望を抱いていた世界のハンドボール界も同じであった。

ハンドボールさく減への抗議が当然のように、ヨーロッパ各国のハンドボール連盟から、日本のハンドボール協会に送られてきた。

しかし、高嶋理事長（注、高嶋氏はJOC

C委員）をはじめ、日本ハンドボール協会は「決定した以上、それにしたがう」という態度を崩さず、また各国の復活要求も、JOCの「東京大会の成功のためにも18種目の線は守らなければならないし、国際的な裏面工作はやらないで欲しい」という意向にしたがって押え続けてきた。

三月の世界室内選手権でヨーロッパに遠征した際も行く先々で、復活要求の声が上がったが、「JOCの決定だから」ということで高嶋氏は、その「声」のなだめ役に回っていた。

そして、各国も満足ながら、これを認めた形となり、それなら「一九六八年の大会での実現を期そう」ということになりかけていた。

しかし事態は、六月アテネで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会の決定で、再びハンドボール関係者の神経をとがらせる結果となった。

この総会で、種目数問題は一度も議題に上らぬばかりか「日本案（18種目案）」は通らず、日本がさく減した種目のななか

投票で除外決定

第58回 IOC総会

第58回IOC総会は六月十五日から、ギリシャのアテネで開かれ、二十一日、一九六四年東京で開く大会の開催種目の討議が行なわれ約四分の討論の後、ブランダージュIOC会長が「投票即決」の断を下し、オリンピック憲章で定められた22種目について投票を行った。

投票は会長、役員を除いて行われ投票総数は43票。東京大会からはずす種目にマークさせたもので、ノーマークだったもの、つまり満票の支持を受けたのは陸上、水上、ボート、レスリング、ウエイトリフティング、体操の6種目で、ハンドボールは洋弓と共に28のマークがつけられ、過半数のためこの2種目の除外が決まった。なお18種目縮少案のため犠牲になっていたカヌーはマーク12、近代五種の実施が決められ日本側の用意した18種目案（ハンドボール、近代五種、洋弓、カヌーさく減）は、通過することが出来なかつた。（この項数字は共同）

ら近代五種競技とカヌーの復活採用が決まったのである。（別掲参照）

「日本案は絶対通る」といい切った組織委員会の面目は、無惨にはねのけられた。しかし、ともかくIOCの決定である。これにしたがうより他はなかつた。

だが、ハンドボール関係者には「オヤ？」という疑問がこのとき、生まれたのである。つまり、あれほど18種目に固執した日本

声明書と公開質問状(要旨)

7月12日夜の日本ハンドボール協会緊急常務理事会で決議された、オリンピック東京大会組織委員会あてに提出の声明書と公開質問状(要旨)は次の通り

声明書(要旨)

アテネで行われた第58回IOC総会で日本のIOC委員とオリンピック東京大会組織委員会のとった態度及び行為は国民の信頼と期待を完全に裏切っている。

また、オリンピック東京大会の会期、選手村、競技種目など組織委員会は自主性をもって解決したものは何一つない。

このような状態では東京オリンピックを迎えても成果はとうてい期待出来ない。

ここに心ある国民大衆と全国15万のハンドボールプレイヤーの名において日本IOC委員と、オリンピック東京大会組織委員会の反省をうながすと共に、責任者の即時退陣を要求するものである。

公開質問状(要旨)

次の項目について回答を要求する。

1. 昭和35年11月28日の組織委員会総会で「オリンピック東京大会の実施種目は18種目に決定することに間違いはない」と高石、東両IOC委員は断言したが、それはいかなる根拠に基いてなされたか。
1. 「オリンピック東京大会の種目のことで日本提案がIOCで承認されない場合は組織委員会が責任をとる」と公言され、また一部の委員の中には「日本案が通らない時は腹を切る」とさえ広言されたが、日本案が通らず20種目となった現在、いついかなる方法でこれを実行されるのか。
1. 日本案の18種目案がアテネのIOC総会で、近代五種とカヌーを加え20種目に変更された。これは種目制限の基本線が根本から崩れたことである。東、高石両IOC委員は、アテネ総会の席上、このようなイキサツからみて、全種目(22種目)実施を主張すべきではなかったか。特にハンドボールは普及度が高く、日本の技術水準も高い、しかも実施にともなう費用も小額であるにも拘らず、これを削除したのはいかなる理由からか。
1. オリンピック東京大会のデモンストレーション種目は実施種目決定後審議すべきで現在決まっている種目(本誌注・野球と日本武道)は全種目をやる前提の下に決まったものであり20種目に減った今日、デモンストレーション種目は改めて再検討すべきではないか。

復活の可能性もあつた?

しかし、時がたつにつれ、「ハンドボールも復活できたかもしれない」という可能性が色濃いものを感じられてきた。

が、いかにIOCの決定とはいえ、簡単に20種目を承諾したことは、あるいは22種目案を出したら、その承認も可能性があつたのではないかとということである。
「言いかえれば、「ハンドボール」も復活出来たかもしれない」ということだ。
「そんなことはない」と、もしそのとき言下に、その可能性を否定できるとしたらそれは高嶋理事長以外にいなかったらう。
それほど、高嶋氏はIOCの決定を信じ、IOC委員の態度に全面的信頼をおいていたのである。

そして六月二十九日、IOC総会に出席した東委員らの帰国談は、ハンドボール界をさらに刺激させるモノだったのである。
七月十二日の声明書、公開質問状問題はこのときの委員の帰国談が導火線となつたのである。各紙に出た委員の帰国談はざつと次のようなものだった。
東竜太郎委員は「昨年ローマの理事会では、種目を18にしぼろうと決めたが、ここ一年間にIOC自体が大きく変わったようだ。しかし、オリンピックの規模を縮少すべきだという考え方が変わりはしない。こんどの総会では18種目に制限することにこだわらず、やめたい種目を表決する方式を採用し、ハンドボールと弓が落ちたわけだ。」(以上朝日、中日、報知)。また、昨年の理事会で決めた種目制限案がこんどの総会で一度

も議題にのぼらなかつたのはなぜかという疑問に對して東委員は「IF(国際競技連盟)の発言力が大きくなつたことや、オリンピックはできるだけ大きくやろうという東欧関係の意見などであつて、ここでそれを持ち出しても通らなないとブランドン・デジ会長が判断したためだ」と語っている。
そして、ハンドボール関係者の最大の関心事であるハンドボール復活の可能性があつたか、否か。ハンドボール等も入れてはじめてから22種目全部をやるといふ提案もできたのではないかと質問に對して、同行した田畑政治組織委員長は「強引に押せばもち論できたかもしれない。しかし、ハンドボールの支持者は一人もいなかった」(報知)と答えている。

高嶋氏は、この談話を聞いたときは発言を特に公けにしなかつた。七月十二日午後四時半から東京一ツ橋の学士会館で開かれた日本オリンピック委員会総会・体協評議員会合同会議の席上で東委員らからIOCアテネ総会の報告が行われたあと、高嶋氏はこの決定は不明朗であり、報告に承服できないと、硬化した態度に出た。
高嶋氏は席上で「IOC総会で決まったことをいままさら大会実施種目に復活を望むのは不可能と思うが、日本の組織委員会がIOCの意向にしたがって18種目に制限しておきながら、今回(注、アテネ)の総会では制限案が議題にのぼらず、投票により20種目に増えた。日本の組織委員会が18種目制限案にこだわってハンドボールなどが詰腹を切られるハメになつた」と追及、さらに不満の具体的理由として「IOCの

方針として18種目にさく減することになった議事録を見せて欲しいと要求したが一度も見せてもらえなかった。「種目さく減は重要な問題であるにもかかわらず当該競技団体に諮問されたことがない」「18種目がIOCの根本方針であるとこれまでいいながら、いまになって東IOC委員はJIOC自体は18種目に制限したことはない」と報告したのは不可解である」といった旨の発言を行なった。

これについて津島寿一組織委員会々長は「18種目案はIOC理事会の決定事項であつたし、予算の関係から組織委員会として開催種目を早急に決定する必要があつた。しかし、こうした結果になつたことについてはおわびするし今後のことにつき話し合いたい」（毎日）と説明した。

組織委責任者の退陣を要求

結局、この会議では高嶋発言が行なわれただけでこの問題に関してはそのまま終つた。このあと日本ハンドボール協会は東京お茶の水の岸体育館（体協）で緊急常務理事会を開いて、高嶋理事長からこれまでの経過の説明、報告があつたのち「IOC委員とオリンピック東京大会組織委員会の責任者の即時退陣とハンドボールを除外した理由など四項目を公開質問して回答を要求すること」に決め、同時に声明書をも発表、十二日夜津島組織委員会々長、十三日朝、田畑組織委員会事務総長に公開質問状と声明書（何れも別掲）を手渡した。

この日本ハンドボール協会の要求に対して、津島会長は「はじめから喧嘩ごしで退陣せよといわれても困る。正式種目として

実施することは国際的な問題なのでいまさらできない。ハンドボールの救済については善後策をねりたい」と語り、田畑事務総長は「ハンドボールの除外は気の毒に思つてはいるが、IOCでは支持も少なく、とても東京大会の種目に加えられる空気ではなかった」（読売）と話した。

この日本ハンドボール協会のノロシは、一部では「頼りない組織委員会に正論をぶつた」と支持され、他の一部では「決定したあとだけにおとなげない」との声がかれた。

しかし、発端は総会から帰国した東、田畑両氏が羽田の記者会見でこちらが強く出ればハンドボールと弓も加わって22種目になつたかもしれないと発言をしたときに始まつたのであり、この発言は確かにハンドボール界の怒りを買うモノである。こうまでハンドボール協会が硬化するのも無理のない話であつた。

大体が18種目に制限されるというローマでのIOC総会の意向とやらも、その総会に出席した東委員が帰国後、一カ月近くたつて突然いい出したことなのだ。高嶋氏は十二日夜は興奮して「ペテンにかかつたようだ」とか「サギにかけられたようなものだ」といった言葉がその口について飛び出したが、たしかにこの種目問題は納得のいかない点がある。その意味で、日本ハンドボール協会の今回の行動は、事態を明確にするためにも無理のないことである。種目さく減問題が起きていらい、新聞、放送などで伝えられる情報に一喜一憂して、しかも最後はキツネにつままれたような状態におかれた国内ハンドボール界に対しても協会の今回の挙は、当を得た態度といふことができよう。

（腹合）

組織委に誠意なし

高嶋理事長の話

七月十二日夜、日本ハンドボール協会常務理事会を終えたあと、高嶋理事長は次のように語つた。

※

われわれは、日本案（18種目）が決まつたときからそれにしたがつておうとしてきた。それはわれわれが東京大会を成功させたいという気持ちからだ。

われわれの考えとは逆にヨーロッパを中心にした世界十数ヶ国からは激しい抗議がきたが、しかしわれわれは、あくまで日本案を絶対のモノと想つていたし、また、変な動き（注：復活のための国際的裏面工作などを指す）をしないであつたという組織委員会の要望もあり、それらの抗議をおさえてきた。今春のヨーロッパ遠征のときも、外国の関係者のおこつているのをなだめるのに努力してきたぐらひだ。

この間の、日本ハンドボール協会の苦勞も察していただきたい。だが、そうした我々の努力も、あくまで18種目制限という原則にしたがったからであり、18種目制限という原則が崩れているのなら話は別だ。

東IOC委員らは、情勢が変わつたからだとおつているが、われわれにしてみれば「だまされた」という気持ち以外にない。アテネの総会でハンドボールの支持が少かつたといつてはいるが、これはわれわれが外国からの復活運動などを前述のような理由でおさえていたからで、もし、復活運動をやつていたら、決してそんなことはなかつたはずだ。

復活運動や抗議活動は、今春ドイツで開

かれた世界選手権に各国のハンドボール首脳者が集つたときにもできたのだし、機会はいくらでもあつた。

外国のそうした動きをおさえてくれといつてきたIOC少く、東京大会の種目に加えられぬ空気ではなかつた」などと発言しているのは、全く不誠意極まるものである。

国内十五万人のブレイヤリーの気持ちをどうしてくれるんだといひ、各国のハンドボール連盟や選手にどう言い訳してよいか判らない。

いままら、正式種目に加えてくれとはいひわれないが、決まつたからしようがない式のやり方は納得出来ないし、大体誠意が感じられないのは遺憾である。

またデモンストレーションに弓が「日本武道」として入ることになれば、オリンピック種目ではハンドボールだけのけものということだ。

国内で、発展の一途にあり、しかも、そのレベルも国際的に見て、トップ・ゾーンに近いハンドボールが、ここで、そうした待遇をされては支障をきたす。

この点についても、組織委員会に抗議をする理由と善処方を要望する理由は充分である。

※

また、津島寿一組織委員会々長は次のように語つた。（共同）

「18種目に制限したのは、実行委員会の決定事項だつた。日本側はこの線にそつて予算措置をとらねばならなかつた。

結果的には、見通しが甘かつた点も多いのでそれについては大いに反省している。ハンドボールについては、救済対策も考へてなんとか了解してもらつてより仕方がない。」

筋のとおり声明発表

だが事態の転換はあり得ない

X ハンドボール協会のJOCへの声明書問題だが、一般の関心というか、反響はどうなんだろ。

Z 少くとも、報道関係者は一様に「JOCはハンドボール協会の言い分をエリを正して聞け」といつている。

X たしかにJOCには、種目数問題に関してアイマイなことが多く、ハンドボール協会がああいう拳に出るのも当然だね。

Y ハンドボール協会としてもあの声明書を出したところで、いまさら東京大会の種目として復活されるとは思っていないだろうし、といって、釈然としな

いままに華られるのは...ということを出したんだろ。ともかく、種目問題を始め、いささか頼りないことが続きすぎるJOCには、痛い一撃だったろ。

X 高嶋理事長の一番いいたいのは「JOCが22種目開催を強調すれば、IOCで承認されたら」という点なんだ。そし

てその努力がなかったばかりか、IOCの支配的意見として種目さく減案があるのだから、ハンドボールは退いてくれといわれ、その言葉に従った。しかも、国際的な裏面工作はするなというのでしなかった。

Z そうしたばかりに、IOC総会でハンドボールが落とされたというのだから。

Y 高嶋理事長が「だまされた」というのはそれなんだ。

Z 高嶋氏にしてみれば、今春の遠征でヨーロッパ各国の関係者の復活運動を、JOCの希望もあり、押えてきただけに、高嶋氏自身の国際的な信用問題もあると思う。

Y 国内的にも、同じことがいえるだろう。

X ただハンドボールは今春の遠征のときJOCあるいは体協からオリンピック種目からはずされたというので、特例の遠征補助を受けているでしょう。JOCにしてみれば、あれが一種の手切れ金といっているはなん

だが...

Y 慰謝料か(笑)

X そういうフクミはあつたと思う。

Y しかしネ、ハンドボールのような国内でようやくその根が地につき、これからというスポーツには、オリンピック種目から落ちたことは大打撃だからネ。

Z だから、ハンドボール協会が国内のプレイヤーに納得させるためにも、あの声明書を出した、というのも一つの見方だろうし理由だろうと思う。

X サトウ・ハチロー氏が東京中日新聞に、それを皮肉って「ハンドボール協会の連中は、なにかいわなければ下の人たちにくあいがわるいので、あんなことをやっただらう」と書いてるが、そうまでとっちゃあ、今度のケースはハンドボール協会には気の毒だ。

Y 世間的にもやや不信を買いかけていたJOCに二石を投げたという意義はあったと思うし、大人げないとはいえないと思う。

X 川本信正氏(スポーツ評論家)は「ハンドボール協会の声明書があげた四つの理由は一々条理にかなってないし、大いに拍手を送る」というようなこと

Y とらえてデモンストレーションにハンドボールを加えたらという問題だ。

Z ハンドボール協会の言い分は、いま決まっている剣道と野球は、22種目全部をやるという前提で決められたのだから、20種目に変わった現在、再検討すべきだという。

X これもたしかに一理はある。だが、すぐ野球に代ってハンドボールがというものでもない。そうすればハンドボールか野球か、どちらが?という比較が必要となってくる。

Y つまりあの声明書で、ハンドボール協会が同情されたりハンドボールがごんごんかのかのときに有利になるかというところじゃない。そのことをよく知っておく必要がハンドボール界自身にあると思う。

X そうなんだ。だからこういうムードのなかだと、ハンドボール協会が世界選手権を日本で開くバックアップをしてくれというとなにか、それが当然の代替のように聞こえるが決してそうじゃない。もともとオリンピックの代りに世界選手権をといっただようなことが大会の性質上から見てもいえるもんじゃない。

Y だいたい手きびしいが、さっきもいったように日本じゃあ、国際試合をやるかやらないか、ましてやハンドボールのような場合は普及上の死活問題なんだ。だから、世界選手権とかデモンストレーションとかは別問題としても体協にしても、JOCにしてみれば、ハンドボールのごんごんのために、なにか手を貸してやって欲しいものだネ。

X それは津島会長も昨年、ハンドボールが組織委員会の決定でさく減と決まったとき、いつていましたよ。「なにか救済方法を考えてやらない」とネ。

Z とまかく、ハンドボール協会が声明書を出したこともその内容、つまり条理も間違ったことではない、出すぎたことでもないんだ。だからこれからはハンドボール協会が投じた一石が東京大会の成功につながるようハンドボール協会も、ハンドボールプレイヤーも祈ってこそ意義があると思う。感情的なやりとりだったらおたがいに損になるばかりだ。ハンドボール協会の立場、ハンドボール界の言い分は十分世間もわかったのだから一応の成果はあったのではないかと思う。

X そうですね。あの声明書によってJOCやIOCの人事上の構成や東京大会の基盤が動くことはまず考えられないことだし、「出した意義」が最大にして無二の意義ということになるでしょう。

芝浦工大、大崎電気を破り3連勝

ことしの全日本総合選手権は8月13日から岡山県の倉敷市青陵高グラウンドに全国から男子38、女子15チームが参加して行なわれた。

女子は愛知紡績5連勝の偉業

男子の部

第一日
一回戦六試合、二
回戦十試合

全教大 (東京)	30	15	15	3	4	小松実高 (石川)
全関学 (兵庫)	18	7	11	6	4	福岡 (福岡)
全同大 (京都)	25	11	14	7	4	大阪府大 (大阪)
法大 (東京)	24	11	13	2	1	天城高O (岡山)
明大 (東京)	14	9	5	1	4	全大阪経大 (大阪)
法友 (神奈川)	16	8	8	1	8	全岡山A (岡山)
▽一回戦						
スiegel (大)	24	12	12	7	5	明星 (東京)
立大 (東京)	24	13	11	6	4	全岡山B (岡山)
全慶大 (東京)	15	10	5	3	2	天城高 (岡山)
京都 (京都)	15	5	10	2	3	防衛大 (神奈川)
明友会 (東京)	14	6	8	5	2	津山高商 (岡山)
弦月会 (兵庫)	16	8	8	4	6	全盈進商 (広島)
日体大 (東京)	20	8	12	2	0	倉敷 (岡山)
芝浦 (東京)	22	9	13	3	2	愛知商業 (愛知)
山口 (山口)	15	7	8	7	7	全関大 (大阪)
早大 (東京)	19	3	2	9	5	桃山学院 (大阪)
○：第八回いらい久々に登場の全						

全日体大 (東京)	16	8	8	2	6	明大 (東京)
全同大 (京都)	16	9	7	1	8	住友化学 (愛媛)
桜丘会 (愛知)	24	15	9	7	3	法大 (東京)
全関学 (兵庫)	30	16	14	0	0	桃山 (京都)
芝浦工大 (東京)	28	14	14	3	4	全教大 (東京)
大崎電気 (東京)	22	10	12	5	3	法友 (神奈川)
▽三回戦						
日体大 (東京)	15	10	5	1	6	弦月会 (兵庫)
芝浦 (東京)	12	5	7	4	7	全慶大 (東京)
大崎電気 (東京)	17	9	8	3	5	早大 (東京)
桜丘会 (愛知)	21	13	8	7	7	スiegel (大阪)
全関学 (兵庫)	17	11	6	7	3	山口 (山口)
全日体大 (東京)	21	11	10	1	10	立大 (東京)

第二日
二回戦六試合、三
回戦八試合

関学や全慶大、それに関西の学生勢が珍しく多数姿を見せた。この日最大の番狂わせは、高村(世界選手権出場)を有する全関大が山口クラブに敗れたことで、横瀬、常田らのベテランを軸に徹底した遅攻をとった山口の老練な勝利だった。このほかはまだ順当に終わったが、この日登場した地元岡山勢は全部敗退。また新進桃山学院大は早大に延長のすえ惜敗した。

○：シードチームの登場で引しまり、全関学―桃山ク戦を除けば一応最後まで興味のつなげる試合が多かった。第一日は予選採用の声が強まるのも当然のような試合があった。その点、この日登場の大半のチームはいずれも全日本を争うにふさわしい攻守を備えていたといつてよい。住友化学菊本は



芝浦工大対大崎電気の決勝

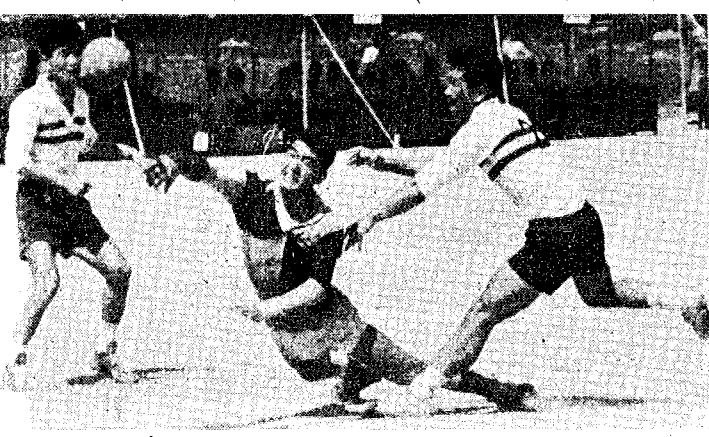
年々チーム力を上げて大会にのぞんでいるが、全同大に前半1点差をつけスタンドの関心を集めたが後半は体力差が現われた。全慶大も芝浦クを苦しめたが、最後芝浦クの近藤(世界選手権出場)の巧技にしてやられた。全関学―山口クは、山口が前日全関大を食っているだけに注目されたが、全関学FWに一步をゆずれ全関学の順当勝ち。気鋭の立大は全日体大をよく追った。またこの日名門全教大の低調が淋しく感じられた。

第三日 準々決勝四試合

芝浦工大 16(8-4)10 全同大 (東京) 10(7-6)14 (京都)

◇ 芝工大は前半RW佐藤の活躍で優位に立ち、後半は同大の追撃に一度は2点差まで追い込まれたが要所でしまり振り切った。試合の展開力で芝工大に一日の長があった。

桜丘会 16(7-6)9 日体大 (愛知) 9(1-3)9 (東京)
◇ 山田、服部の世界選手権組にベテラン浅野を加えた桜丘会が前半こそ追われたが、後半は時間と



ともに差をつけた。

全日体大 18(8-7)14 芝浦工 (東京) 10(7-7)14 (東京)
◇ 全日体大が井上、山下の二枚のポイントゲッターを有するのに引きかえ、芝浦工は近藤一人で後半はその差が現われたような結果になった。芝浦工の粘りは一応賞されてよからう。

大崎電気 20(11-5)14 全関学 (東京) 9(9-9)14 (兵庫)
◇ 初顔合わせの好取組。大崎はエース竹野の故障からFW力が心配されたが、LI井上がすっきり自信をつけてあざやかなプレーをみせ、しかも全関学の守備陣が前半呼吸が整はず乱調だったため意外の大差となった。後半、全関学は必死の反撃を試みたが1点入れられれば1点返す大崎の着実な攻法に前半の点差をつめることができず敗退した。

第四日 準決勝二試合

芝浦工大 21(11-0)14 桜丘会 (東京) 8(1-8)14 (愛知)

◇ 前半10分すぎまでは互角。しかしその後は芝浦工大の佐藤、越智の両ウイングのシュートが決まり出し、徐々に点差を開いていった。後半桜丘会は風上を利用して追い込んだが、芝浦も攻撃の手を休めず食い下がる桜丘会を振り放し

た。ベテランをそろえた桜丘会の

「柔」も「巧」も、芝浦工大の「力」「剛」に屈した形だった。

【桜丘】 藤野 藤野 島野 野田 部内 之 堀 津 伊 宇 齊 豊 牧 浅 山 服 尾 渡 伊 宇 齊 豊 牧 浅 山 服 尾
GK FB HB FW ST 反 則
【芝浦】 倉 保 村 藤 村 藤 山 村 島 智 勝 久 中 斉 野 佐 金 北 福 越
大崎電気 14(6-3)12 全日体大 (東京) 8(1-9)12 (東京)

◇ 昨年のこの大会の準決勝は12-8で大崎、今春の全日本総合室内の決勝は16-14で全日体大と、一年にして早くも激しいライバル意識をもっている。両チームは最初から激しい攻防をみせ、期待通りの熱戦となった。この日採った戦法も大崎は相変らずのパスアンドラッシュ。全日体大は巧者らしく速・遅攻の使い分けとベンチワークも正に対照的。しかし、大崎は前半、宮原、井上、竹野の左サイドが巧みなクロスプレーとオープン攻法を併用して、全日体大のバックスをゆさぶり着々と加点した。一方の全日体大は後半CF栗本に当りが出て、LW井上とのコンビネーションプレーが生きて激しく追ったが、大崎は前半の優勢を持続して結局押し切った。

【大崎】 本 森 橋 上 口 井 山 内 藤 上 野 谷 原

福 高 村 田 高 杉 小 宮 井 竹 谷 原

【日体】 田 井 田 崇 川 川 林 下 本 義 上 保 木 田 福 速 久 青 字 北 小 山 栗 青 井 木

▽三位決定戦
桜丘会 24(12-12)20 全日体大 (愛知) 8(1-8)20 (東京)
◇ 桜丘会の三位は第九回大会に次いで二度目。常勝の名を欲しいままにした全日体大が四位になったのはこの大会が初めてであり、名門の奮起が待たれよう。

第五日 三位決定戦、決勝

芝浦工大 17(9-9)14 大崎電気 (東京) 8(1-5)14 (東京)

◇ 昨年の決勝も同じ顔合わせ。昨年芝工大(優勝)のユニホームを着けて戦ったGK福本、CH田口がことしから大崎のチームの正選手として登場。お互いになんども練習試合をし、手のうちは知りつくしているはずだった。それが、かえって両チームを堅くさせ、開始直後は動きが鈍く、とくに芝浦は凡プレーが多かった。その虚を大崎はついて5分(竹野)、7分(井上)、8分(井上)と得点、13分には6-2と順調にリードし

大会 スケッチ

泣きつ面に蚊?

▽倉敷市はとても暑い。グラウンドは乾きに乾いてしまい、市役所の散水車が試合の合間をみて走り回った。広いグラウンドを一台の散水車がハンドボールの速攻よろしく手ぎわよく散水した。主催者がここまで気を使ってくれたのはよかった。

た。しかし、芝浦はリードされてからかえってプレーがのびのびと決り、北村、越智の左サイドが確実に決め出して7分間に連続4ゲット、6-6のタイとした。大崎は少しもあわてず井上、竹野、井上と決めて再び9-6と優位に立ち、この試合ぶりから見て、「こ」として大崎の「声」がスタンドにチラホラし始めた。だが粘る芝浦は



芝工大不断の練習が勝因

総評 好チーム誕生で充実の女子

○：男子は三十八チームが参加したが予想どおりベスト・4には芝浦工大、大崎電気、桜丘会、全日体大が残った。いまのハンドボール界はこの四チームが圧倒的な強さを持っており、他のチームの食い入る余地はない。当分の間こんな調子が続くのではないか。ハンドボールがさらに大きく飛躍するならば、この4チームを打倒するチームが現われることだ。ところで大会は芝浦工大の3連勝に終わった。大会前の予想は大崎電気―芝浦工大の決勝ということであった。優勝は芝浦工大とみる人、大崎

電気の初優勝とみる人と真つ二つに分れていた。わたしは大崎電気を買って出たが、これはみごとにはずれてしまった。なぜ大崎電気を買ったか。昨年まで芝浦工大の現役だった福本(GK)、田口(HB)の入社で大崎の戦力が倍加した。芝浦は逆に村上(FB)、尾藤(FB)、山田(FW)の卒業でスケールが小さくなった。これをみて大崎優勝の線打ち出した。それだけに芝浦工大が優勝したのは立派である。芝浦工大3連勝の因をさがすと、それは「一にも二も練習」である。東京での練

習、松本での強化合宿と一日も休まず練習をつづけてきた。大崎電気も、連日2―3時間の猛練習を積んだが、社会人と学生とは練習時間に大きな差があった。これが優勝―準優勝の結果となつて現われた。芝浦工大は越智の長足の進歩、佐藤(世界選手権出場)の正確無比なシュート、新人森田(中京商卒)のCF起用、主将勝倉を中心としたバックスの堅さが3連勝に結びついた。越智は気が弱いところがあるが、ことしになってから試合度胸が出て、芝浦伝統の速攻をみせてくれた。佐藤―越智の両ウイングが芝浦のあげた得点のほとんどを占めている。越智が自信を持ったことは大きな収穫である。佐藤の正確なシュートは定評があり、世界選手権に出場してからますます磨きがかかった。この越智―佐藤のコンビは昨年までの山田を中心としてFWにくらべ優さるゝも劣らないものがある。バックスもすばらしかった。準決勝で桜丘会のFW、とくにCF山田を完全にマークし、徹底的につぶした。山田はチャンス・メーカーであり、この山田がつぶされて

は得点力が半減するのは当然である。芝浦が大崎との決勝戦で前半10分まで4―1、13分まで5―1とリードされたときは芝浦工大3連勝は考えもつかなかった。それを前半終了までに9―9と追いついたのは若さと練習量が大きく物をいっている。○：大崎電気は昨年につづいてまたも芝浦工大に敗れて2位となった。その原因はどこにあるのか。第一にポイント・ゲッター竹野の不調である。大会中下痢を起こして彼本来の力が出なかったこと。第二に宮原(俊)が欠場したことである。昨年の団体(熊本)で右足を痛め一時は回復したが、ことしの四月にふたたび痛めてしまった。もし宮原(俊)が出場していたら優勝したことだろう。杉山、井上がよく働いた。CF宮原(藤)がチャンスメーカーとなって杉山、井上にチャンスをあたえた。決勝戦の前半の9点のうち井上は4点をあげ、後半にも2点をあげた。竹野の不調、宮原(俊)の欠場を十分補っていた。バックスはすばらしい出来をみせたが、決勝では固まりすぎて芝浦工大FWにふり回され

24分北村が得点、27分にも北村が持ち込んで8―9とし、29分越智の殊勲の同点シュートで9―9となり前半を終った。

【大崎】 本森橋上(口井内)上野 34
福高(高村)田高(杉小宮)井竹 29

GK FB HB FW 主審 荒川 34
シ反

【芝浦】 倉保(村藤)村藤(山田)村智 34
勝久(中斉)野佐(金森)北越 48

後半、芝浦は風上を利用してまず佐藤がゲットして10―9とこの試合初めてリードを奪い、このあとはすっかり自分のペースで試合を進めた。即ちオープン攻撃を多用して大崎バックスのくずれを待ち、佐藤、北村、越智がサイドに出で好シュートを放った。そして守っては、やや疲れの見えた大崎FWの動きをバックスがよくマークし、GK谷の堅守もあって、追加点を許さず、20分6―3(合計15―12)として勝負の見通しをつけたかにみえた。しかし大崎もさすがで、このあと24分井上のゲットで6―4(15―13)、27分には14米スローを得て、竹野が決め6―5(15―14)、再びスタンドを騒然とさせた。15―14となったあと芝浦は佐藤が、あざやかに決めて16―14とした。このシュートは大

ていた。しかしC日田口の激しいアタックは芝浦といえども再三苦しめられていた。大崎電気の渡辺社長は「絶対優勝してみせる」とはりきっていたが、後半10分から19分まで1点もはいらなかったのなればあきらめていた様子だった。宮原(後)が第一線に出場すれば芝浦工大といえども、いままでのように楽勝は望めない。

○：桜丘会は高村(世界選手権出場)が全関大から出場したのでFWは弱いようだったが、服部・山田・浅野の三人がよく走っていた。浅野が準決勝の芝浦工大戦にひとり9点をあげたのは驚異的だった。全日体大は名門としては物足りなかった。小林(現役)の不調が大きく響いた。若い選手はもつと走らなければ勝機はつかめない。

○：全同志社大、全関学がベスト8にはいったのは関西のチームのためによかった。ただ学生現役チームの芝浦工大、日体大がベスト8に進んだが、その他の大学チームはなんとも救いようがない。

○：どのスポーツでも学生チームが強くないと試合はおも

しろくない。また男子二回戦で全関学が桃山クラブを30-0で破ったが、1点もとれぬ桃山クラブの奮起を望みたい。いやしくも全日本に出場するチームなら練習を十分積んだうえで出るべきである。あるいは地方で予選を開いて選抜するか、推薦するかの手を考えてもいい時機にきている。

○：一方女子は15チームが参加したが愛知紡の連勝で幕を閉じた。ことしチームを結成した大洋デパート(熊本)が決勝に進出し、しかも延長戦に持ち込んだのは大いに賞される。大洋デパートのチームをみると熊本市立高、菊池農蚕の出身者ばかりである。ことし一月の全日本インドアに出場した熊本商大クラブに菊池農蚕から四人が加わったものである。強いのは当然である。決勝でポイントゲッターの西村(八)のプレーキで優勝を逸したが、来年の大会は恐らく愛知紡を大きく引き離すことだろう。井手、今池、関のベテランの活躍はチームを大いに引きしめていた。愛知紡は伝統があるだけに、ここぞという場面になるとやはり強い。沢田、青

木、磯部、塚原らはスピードに富み、決勝戦の延長前半30分に塚原が右サイドから決勝点を、沢田もダメ押し点を入れた。3位の大崎電気は栃木女、水海道二高、静岡城北、石岡高の好選手を集めているだけに試合運びがうまかった。もう少しスピードがつくと大いに楽しみだ。宇井(栃木女)が中心となっている。レナウンは芝浦工大出身の塩川君が監督となつてチームを結成した。これからのチームである。大洋デパート、大崎電気、レナウンの社会人チームが生まれたのは女子球界のため、日本ハンドボール界のためによることばしいことである。三国ヶ丘クラブ(大阪)は準決勝で愛知紡と対戦し、15-0で負けたのはどうしたことか。ベスト4に残るチームならもう少しなんとかかりそうなのだ。【○】

○：試合は終始1点を争う激戦、後半15分8-7とリードされた三国ヶ丘がRW釜下のシュートで8-8のタイとしたあと「問題のプレー」が起こった。同点となつてエキサイトした両チームがルーズボールを追ったさい、青陵クRB高谷が相手選手と衝突して倒れた。青陵ベンチはすぐ水谷と交代させた。

○：ところがこの水谷の起用が青陵クの当日の正式登録選手(エントリー)にはあつたが、GK以外の位置とは交代できぬ四人目の選手で、「フィールドプレイヤーの交代は三人まで」との規則(第三条第一項)に違反したのである。このため大会本部ではルール違反ならびに登録違反としてこの試合を没収し、三国ヶ丘の反則勝ちと決めた。

○：青陵クの三宅節子監督は「補欠の四人のうち、フィールドプレイヤーは三人であと一人はGK。しかもそのGKがフィールドプレイヤーの代行はできないことも知っていた。ウチはGKの補欠がいなかったため、フィールドプレイヤー四人を登録していた。そのためになくなく四人目を出してしまつた。エキサイトしていたとはいえ、大変なミスでした。選手には気の毒です」と極めて神妙。

会 社 大 スケ ッ チ 反 則 負 け 青 陵 ク、 珍 し い

○：第二日目の女子準々決勝の三国ヶ丘(大阪)対青陵ク(岡山)は青陵クの反則負けという珍しい結果に終わった。もちろん、全日本では初めてのことだ。

崎に追撃を断念させるには、実に効果的で、佐藤の気力と好技が賞されよう。

かくして、芝浦工大はここに第十一回大会いらい三年連続優勝をとげ、今春いらい関東学生リーグで7、全日本学生で5、今大会で5と合計17連続の白星をあげ、再び連勝街道と四冠王へのスタートを整えることに成功した。

大会前、絶対の優勝候補といわれた大崎電気は、決勝ではやはりOB(社会人)と現役(学生)という体力差が現われ惜敗した。結果論ながら前半23分9-6とリードしたあと、ズルズルと失点したのがたつたワケで、このときなんとか策の施しようがなかったのかと惜しまれる。

日体大が韓国に遠征
日体大ハンドボールチームが十月二十日羽田発で韓国に遠征する。
団長は栗本義彦氏(日体大監督)、副団長馬場太郎氏(協会副会長)、監督荒川清美氏(日体大監督)ら一行二十人。韓国で8-10試合行ない、十一月四日ごろ帰国する。
ハンドボールの海外遠征はことし二月の欧州遠征に次いで2度目。

大洋デパートの健斗むなし

女子の部

第一日 一回戦七試合

全尼崎 (兵庫)	13 (6-1)	1	日女体短
三國丘 (大阪)	9 (8-2)	5	日体大O
青陵 (岡山)	8 (4-5)	7	清水女商
水海道第 (茨城)	9 (6-3)	5	桜花 (大阪)
大洋デパート (熊本)	19 (11-3)	5	レナウン (東京)
大崎電気 (東京)	12 (5-1)	3	稲沢高 (愛知)
日体大 (東京)	13 (7-1)	6	井原高 (岡山)



優勝の感激にむせぶ愛知紡績チーム

○：新顔の実業団三チーム、全国高校二位の水海道二高など男子以上に話題が多かったが、一回戦は実力などの試合もはっきりしすぎており、青陵ク―清水女商戦を除いてはほとんど一方的なゲームだった。高校OGの三國ヶ丘クが日体大OGを破ったのは番狂わせだったが、日体大OGはコンビネーションが悪く、この日に限っていえば実力負け。なお大洋―レナウン戦は日本で最初の女子実業団同士の対戦である。

第二日 準々決勝四試合

愛知紡績 (愛知)	15 (8-0)	4	全尼崎 (兵庫)
前平 (愛知)	8 (6-5)	8	青陵 (岡山)
三國丘 (大阪)	2 (1-3)	8	反則勝ち

◇互いに持味を生かしたおもしろいゲームだったが結果は意外なことになった。青陵クラブがチェンジメンバーに未登録選手を出場させたため、「反則負」を宣せられた。全国大会ではおそらく初めて

のケースだろう。珍記録なだけに本部席もだいたいまごついたが、8-18のスコアはあくまで参考記録である。

○：新顔の実業団三チーム、全国高校二位の水海道二高など男子以上に話題が多かったが、一回戦は実力などの試合もはっきりしすぎており、青陵ク―清水女商戦を除いてはほとんど一方的なゲームだった。高校OGの三國ヶ丘クが日体大OGを破ったのは番狂わせだったが、日体大OGはコンビネーションが悪く、この日に限っていえば実力負け。なお大洋―レナウン戦は日本で最初の女子実業団同士の対戦である。

第三日 準決勝二試合

愛知紡績 (愛知)	15 (8-0)	0	三國丘 (大阪)
準決勝 (愛知)	16 (8-4)	10	大崎電気 (東京)

◇準決勝で15点差、第8回大会に18-3の記録があるが、零封勝ちも珍らしい。

◇球史を飾るにふさわしい好ゲームだった。愛知紡績は試合開始直後、得意のサイド攻撃で連続ダッシュ3-1と優位に立った。しかし、大洋はこのあとデフェンスを固めて愛知紡の攻撃を食い止める一方RW今池が好技を連続してハイフタイムには逆に4-3と1点リードした。このあたり相手の動きをみてすかさずデフェンス体形を変えるなど、大洋はさすがにベテラン、巧者ぞろいらしかった。しかし、愛知紡のFWも磯部、沢田が後半、徐々に熊本を圧倒し加算すれば、大洋も慎重な攻撃でホ

第四日

▽三位決定戦	大崎電気 (東京)	11 (6-3)	4	三國丘 (大阪)
▽決勝戦	愛知紡績 (愛知)	8 (3-1)	4	大洋デパート (熊本)

◇大崎の善戦から激闘となった。大崎は熊本をよく研究していたようだった。熊本の誇る今池、久連松、西村(八)のFWトリオはいぜん健在で、HB井手の好リードも大きかった。結局は力の差がスコアになったが、大崎はいま一步チームにたくましが欲しい。

延長にはいると両チームともますます慎重に攻めたが、互いに相手の守備陣をくずせぬまま後半にいった。

ここで、愛知紡は再びローリング・オフエンスから機をみて塚原が強引とも思えるミドル・ショットを放てばこれがあざやかに決まって待望のリード。そして必死に粘る大洋の息の根をとめるようにタイムアップ近く沢田が左サイドから好シュートを放って、遂に第九回大会に初出場で初優勝して、いよいよ五年連続優勝を遂げるという大偉業を打ち樹てた。しかし、大洋の健闘もあっぱれで、敗れて悔しいのない立派なものだった。

イント、愛知紡が三転6-5とした。そのまま押し切るかにみえたが、タイムアップ寸前大洋はLW西村(八)が決めて6-6となり延長にもつれこんだ。

【大洋】	西村 (美)	原永手池松 (八)	蓮村 関	19	37	1
【愛紡】	篠山宮塚磯青沢	交代	S 反 M	29	27	0
			越智 (主審)			

ヨーロッパ遠征記

(その一)

高嶋 瀧
世界選手権監督
日本代表監督

まえがき

全国のハンドボール愛好者の絶大な支援と期待をになつて、協会創設らしい初の海外遠征を行なつてからはや数ヶ月を経過した。その間、報告をすべしきであったが、紙面の都合その他で今号まで延びたことを深くおわびする。本号から編集部の紙面の許す限り、できるだけ詳細な報告を行ないたい。

約二カ月にわたるヨーロッパ遠征をふり返り、あのいそがしさと気苦労のなかでよくまあ二十五試合もできたものだ、いまさらのように選手諸君の健闘に感謝している。

今回の遠征の第一の目的は、西ドイツで行なわれた第四回男子七人制世界選手権大会に出場することであり、第二はその機会を利用して出来得る限り多くの国々で、数

多くのゲームを行なつて、技術の向上をはかることであつた。第三の目的は数多くの国々を回るることによつて、若い選手達に国際感覚を植えつけると同時に、夢を持たせることであつた。

第一の目的である世界選手権大会においては、強豪チエコスロバキアおよびルーマニアに完敗した。しかもこの両チームがついに決勝に進出して、第二延長におよぶ大熱戦を展開したことも、なにかの因縁がありそうなきがする。

大会で対戦したチエコスロバキア及びルーマニアは、想像以上の強さであつたし、事実スコアの上ではたしかに大差がついた。しかし、私はあまり悲観はしていない。

あの特殊なふん囲気と、あの大観衆を前にして初の遠征としては選手たちはむしろよくやつたとさえ思つている。

昨今外国遠征を行なう他の競技の役員選手が体格の差をうんぬんするが、これはたしかに不利であることに間違ひはない。しかし背の低いこと自体は日本人に負わされた宿命であり、西欧諸国の選手と同じになるようなことは、「百年河清を待つ」にひよといふことである。

われわれにも体格の差はたしかに大きな影響をもたらした。しかしながら、個人のテクニク、或はボディコントロールなどは少しも負けず、むしろ日本人特有のプレーがしばしば賞賛されたことから考えても外国遠征の回数を増し、戦術についてのたゆまざる交流をはかれば、その差は急速に縮めることが出来ると信じている。

技術的にみて、本年はハンドボールの一転換期になるのではないかと考えられ

る。それは昨年までの世界ハンドボール界は（ここではすべて七人制ハンドボールについてのみ記述するので、誤解のないように）スウェーデン、デンマークなどを主流とするスカンジナビア諸国の個人技を主体とする技巧派、ドイツ、チエコスロバキアなどの主張する力とスピードに重点をおく本格流とに二分され、そしてつねに前者が勝利をおさめてきた。

事実前者とくにスウェーデンの試合をみると、スピードといつた感じより、むしろシューといいたいくらい個人技がすばらしい。パスは背中のように、マタの下から自由自在に行なわれる——軽業師のむれをみるようであるが、これが世界の第三位になつたところに、前述した技術的な転換があるのではないかと考えられる。

しかし、力とスピードの代表派であるチエコスロバキア及びルーマニアが、ともに決勝に進出したことによつてなお一層その感が強いのである。

決勝戦のチエコスロバキア対ルーマニアの試合を見て感じたことは、まず第一に、よくここまで人間を鍛え上げられたものだということがある。とくにルーマニア選手にそれを感じたが、彼等は一時間四十分（第二延長まで）の間、ほとんどメンバーチェンジを行なわず（二、三の例外はあるが）しかも終始動きが鈍らないのには驚いた。なんだか人間も鍛えれば、ここまでやれるんだ、という見本をみせつけられたような気がしたのはわたくし一人ではないと思う。

技術的に共通している主な点は、一、すべて六人攻撃、六人防禦であること。この場合フィールドプレーヤーの六人に、オフエンス・ディフェンスの技術の差がないことが、いかに選手の基本技術に力を入れているかを物語るものである。事実優秀な攻撃者がどんなに点を取っても、防禦の際に、それ以上の点を取られれば、チームとしてはマイナスであるのだから。



世界選手権大会から

二、ゴールキーパーが防禦のさい、極端に足を多く使用すること。
腰から下のボールは、ほとんど足で止めるといつても過言ではない。したがって身体の全部が余さず防禦体になつてくるので、必然的に前進守備（シューターへのアタック）も可能になつてくる。

三、原則として、すべて速攻の連続である。デフェンスをしているフィールドプ

レーヤーは、相手がシュートしたとみるや猛烈に相手陣内に殺到する。ゴールインしてもいづればハーフラインまでもどらなければならぬのだから。

四、セットオフエンスにさいしては、両サイドのコーナーぎりぎりまでを、ローリングの範囲として使用する。

これは投球力と、サイドからのシュート力に多分に関連があるが一考を要する問題である。

五、目まぐるしく選手の交代を行なう。

これはカールスルーエでの第一戦終了後私もケンバ氏（西独ハンドボール界の第一人者）から注意を受けたが、選手交代はスムーズですばやい。

六、ロングシュートを多用する。

どのチームも、ほんのちよつとの間をみて、ロングシュートを行なう。ルーミアニアの世界制覇は、ロングシュートの勝利といっても過言でない。

強豪の敗因、第二ラインの欠除

日本チームは経験不足、だが将来に期待

ルーミアニアの勝因分析

「7人制ハンドボールは危機にひんしていると思うか？」この質問はあるスポーツ紙によってとりあげられ、世界選手権大会決勝のチェコ対ルーミアニア戦に来ていた何人かの観衆に対して発せられた

遠征の第二の目的は、各国のいろいろなチームとなるべく数多くの試合を行なうて、彼らの長所を吸収することであったが、この計画は大成功だったと信じている。

相手があつて試合をする以上、勝つことがよいことは当然のことである。それにしても通算して13勝10敗2引分の成績は、ハンドボールの本場であるヨーロッパに生れ初めて遠征した選手団としては、立派なものだと自画自賛している。

それだけに若い選手たちがよく規律正しく行動し、あらゆるところで絶賛をうける立派な態度でぞんでくれた。良い伝統を築いたものとして改めて敬意を表したい。

ヨーロッパにおいては、ナショナルチーム（その国を代表するチーム）と、それ以外の第二線以下のチームとの技術的な差が極めて大きい。これは、ナショナルチームに対しては国家が大きな予算と計画をもつて、徹底的な訓練を行なっているから

だ。言葉をかえていえば、東欧圏はもちろんのこと、西欧諸国も次第にステートアマチュア化しつつあり、この点は日本のスポーツ界も、早急に考えてみなければならぬことだろうと思う。

一例をあげれば、フランスではこの国はいままでスポーツにそれほど力を入れていなかった）あらゆる種類の有名なスポーツマンは、パリ郊外にあるジュアンビル（地名）の軍隊に入れられ、ここでスポーツの猛烈な訓練をうけている。このジュアンビルの軍隊は、スポーツ専門で制服の腕には五輪に似せて三輪のマークを入れ、市民も「ああ、あれは戦争をしない軍隊だよ」といってすべて承知の上だ。そしてフランス

のナショナルチームは、ほとんどこの軍人で他に少数の大学生を加えて編成されている。この服務期間は約二カ年で、その後はまたそれぞれの職場に帰って行くというシステムを作り上げている。（つづく）

国際協会
広報抜萃

ものである。というのはこの決勝戦は感動的で劇的ではあつたけれども、7人制ハンドボールの良さやダイナミックな点が十分示されることを期待してこの対戦を見に来た人々を失望させたからである。

世界チャンピオンのタイトルがかかっている試合では、試合結果の方が試合の美しさより先行するということが大きな特徴であることを明らかにしなければならぬ。選手権大会の全期間を通じて、ルーミアニアはボールを失う危険を慎重に避け、パスを回すという競技方法を実行してきた。これがルーミアニアを成

欧州における 審判の方法

①

日本代表団役員
荒川清美

表題に関しては、帰国早々に愛好者各位に報告すべき問題でありましたが、ついにその機会を得ることがなく、今日となりました。まことに失礼であるばかりでなく、相済まないことと深くおわびをさせていただきます。しかし欧州における審判の方法と云ふこと新らしく取り上げ、問題とすることがないことは昨年ルーミアニアチームの来日によって実証されていることでもあります。

今回たまたま取り上げてみたいことは審判員と選手間のもの考え方が全く同じである。この実例を説明しながら、規則の問題などと合わせて参考になればと、その一部分を簡単に紹介してみることとします。まづ最初に競技場より取り上げてみますが、競技場のサイドライン、ゴールラインを立体的にみることはルーミアニアチームによって証明されたことでもあります。従つて欧州においてもかかる見地より審判が行われているのであります。広さにおいても日本と同じく世界選手権大会（以後は大会と云う）も二〇・四〇米の競技場を使用したのであります。その他各国の競技場は（フランス、ドイツ、チェコ）においても最少限以下の競技場もあり、また広いときは別に床面がコンクリートのものまで非常にまちまちであつた。大会の対ルーミアニア戦はこのようにこ

功には導いたが、試合をおもしろくなくさせた。

だから某スポーツ紙のいうように、「7人制ハンドボールはこのために危機にひんしているだろうか？」ノー！この質問は全く必要がない。この世界選手権大会の全試合がその美しさによって観衆を熱狂させたことを少しでも考えてみれば十分である。たとえばベルリンにおけるスウェーデン対チェコ戦やミネスターにおけるドイツ対デンマーク戦、あるいはアイスランド、ユーゴスラヴィア、ノールウェー、フランスなどのチームにより展開されたまぶしいほどのスピードのある試合である。

※ ※

これに反してもう一つ別の質問が課せられるべきである。「なぜ強力チームがルーマニアの競技方法に屈服させられたのか？」という質問である。この質問に答えることはかなり容易に思える。チェコスロヴァキア・デンマーク・ドイツがこうむった敗北は基本的には「第二ライン」の欠除に原因する。「第二ライン」とはフリースローラインの後方から敵のバックの頭上を越えてジャンプシュートをする強力なシューターにより形成される第二の攻撃ラインのことである。

ドイツチームはギール、ニツシャー、ヒルシュといった強力シューターがよくエリア・ラインまで、突つ込んだ。試合開始当初シュートが決らなかつたのでボールを失うことをおそれるようになり、十分な動きが鈍くなつた瞬間からルーマニアに敗れていた。さらにハブリック、

デニダ、ヘルマンにより形成されたもう一つの攻撃ラインが得点できなかつたので、敗北は確定的になつた。

一方ルーマニアは優れたゴールキーパー・レドルを持ち、さらにブルガル、巨人モゼルといったあなどるべからざる二人の第二ライン得点源を持っていたことを認識する必要がある。

非常に声援をうけたドイツチームが果せなかつたことを、第七位のノルウェーチームがその強力な第二ラインの故に、14対16でルーマニアに惜敗したことによつてほぼ実現した。

強力な第二ライン得点源をもつたスウェーデンとルーマニアの対戦は不運にも行なわれなかつたが、もし行なわれていたら以上のべた仮説を確認できたと思ふ。

日本チームの評価

7人制ハンドボールの価値に疑問を持つ者は日本チームの試合ぶりをみながつた者である。事実彼らの現われたところではどこにおいても彼らのボールさばきの巧妙さが観衆の感嘆と興味をわかせた。日本の若い選手はものすごく敬しやうであるばかりでなく、彼らはたとえ敗れてもその試合を必ず成功にみちびく一種のコミックな要素を試合ぶりのなかに持っている。第一次リーグでクジ運は不運にも彼らを世界最強の二チームと対戦させた。いかなる楽観的希望も持てなかつた。しかしドイツの各地方チームとの対戦は日本が得点されるのみでなく巧妙に得点することを示した。

ドイツの著名なブレイヤーであるベルナルケンバは日本チームにある期間付き添い、ギョッピンゲン・チームにより実行されているフエント方法を教えた。そのケンバは日本チームがヨーロッパチームにとつてまもなくあなどるべからざる敵手になるだろうと評している。

※ ※

経験の不足から競技規則の解釈について日本の誤りもいくらか見られた。荒川審判員はいくつかの試合のレフリーを行つたが、その誤まりを明らかにし、必要な修正を帰国するとすぐ行なうことになると思われる。

※ ※

アジアの若い選手達はヨーロッパの旅で得た経験を生かすことになるだろう。またハンドボールが東京オリンピックの競技種目として採用されたなら、ヨーロッパチームはアジア的たぐましさにヨーロッパ的技術を適用した準備十分の敵手を見出すことになるだろう。

日出づる国のわれらの客人は、この数週間でフランスで準備の4試合、次に世界選手権大会で本番の2試合、次にドイツ各地のチームと6試合、チェコで2試合、フランスで3試合、更にイスラエルで何試合か行うことになつた。そして四月九日に日本へ帰つた。数多くの招待・訪問・宴会の疲労を彼ら独特の微笑と抵抗をみせながら果していった。

(国際ハンドボール協会広報七人制世界選手権大会特集号抜萃はん訳は渉外理事境井秀三)

シクリートの競技場で行なわれたものであります。またフランスにおいては昼間は魚市場、夜になると体育館に早変わりするという競技場でも試合を行つたものであります。日本におよそこのような場所もなければ、このような競技場大会を開催することなどは考えられないことであります。欧州においてはこの状態において大会が運営されている。ゴールポストにしても上方下方も正規のものよりも大きなものばかりでした。

フリースローラインにしても一メートルほどの長いラインで引かれ、間隔もばらばらでどれをみても正規のものがない。審判員にきいてみると、正規の答えをしてくれたので、審判員は承知していることを確認したわけではあります。

ボールについては規則通りに審判員は二個のボールを選定し使用している。無断で交代しているのではなく、あくまでも一個のボールを使用して運営され、已むを得ない場合のみ交代する方法をとっている。たとえばシュートをしたボールが場外に出たとき、直ちに代わりのボールでゴールスローなどをすると審判は試合を中止させ、改めてゴールスローをさせるという処置を用いている。競技者の交代にしても交代は規則通りベンチからさせているがフィールドプレイヤーは審判員に通告せず交代をしている。この方法は日本と異なるので、国際連盟、ドイツの審判委員長(以下は両国委員長という)に、きいてみると、フィールドプレイヤーは無断で交代してもよいが、ゴールキーパーの交代は審判員に通告しなければ交代することは出来ないとのことでした。この実例をチェコ対ルーマニアの決勝戦に見ることが出来ますのでそのことを次号に述べてみることにします。(つづく)

ハンドボール選手の

基礎体力

ハンドボール協会
トレーニングドクター 広田公一

基礎体力がいかに大切か

長い年月にわたって水泳の練習をしていると、自ずと水泳に適したからだつきになる。重量挙げ選手はまた、重量挙げに適したからだがつくられる。ハンドボール選手の場合でもまったく同じである。たとえば筋肉についていえば、筋肉は使えば肥大するということから、ハンドボールの練習をつづけていけば、それが練習でよく使用する部分の筋肉が肥大するのは当然である。

ハンドボールの練習で、ハンドボールに最も適したからだがつくられる。ハンドボールの練習だけをつづけていくのがハンドボールに熟達する最もよい方法であると考へる者もあるだろう。

ハンドボールの練習だけで確かにかなりの程度まで上達するし、しかも上達するもつとも近道である。

筋力・スピードなどハンドボール試合に必要な運動能力は、ハンドボールの練習中におのずと伸びていくであろうが、その練習から得られる向上には限度がある。

バスケットボールの試合のエネルギー代謝を測定したことがある。同一男子が前半・後半を通して全試合出場した例をみる。前半の30分ハーフでのエネルギー消費量は約260カロリーであった。試合の後半になるとみるからに動作が緩慢になり、前半では早や駆けて行なっていたドリブルも後半には歩いて行なうという状態であった。後半30分のエネルギー消費量は約180カロリーとたいへん低下している。

30分で260カロリーというところから約9カロリーになる。後半は毎分6カロリー低下している。マラソンランナーは1分間15〜16カロリーのエネルギー消費量で2時間30分を走破するという点を考えると、このバスケットボールの選手のスタミナはまだまだ十分でないと考えられる（実際はこのように単純に比較できないのである）。

ことし一月、全日本ハンドボール選手権大会をみる機会をもったが、前半の動きにくらべて後半の動きのぶさが歯がゆいぐらいであった。エネルギー代謝からみてスタミナの不足を推測できる。

以上は一例にすぎないが、いまま少し体力

があればハンドボールの試合にあたって大変有利であると考えられる場合が多い。最近さかんに行なわれているサーキットトレーニングのようなものは、この点を考慮した基礎体力を高めるためのものである。

基礎体力は選手個々の現在における運動に対する素質と考えることができる。基礎体力の高いものほど運動に有利である。柔軟性のテストで柔軟性に乏しいと判定された者が、ハンドボールの練習や試合ではいかにも身のこなしが軟かいとみえる者もいよう。ボディコントロールが弱い体力をカバーして優秀な選手になっているものもあるだろう。しかしそれは決して基礎体力の必要性を否定してはしないのである。彼がもし基礎体力において現状より優れていれば、さらに優秀な選手になっていることは論ずるまでもないことと思う。

反応時間はかなり短い

六月の日曜日一日を割いて、全日本学生ハンドボール選手権大会の優秀チーム、芝浦工大、明治大学、早稲田大学三校の学生選手40名について基礎体力（体格、一般運動能力、健康診断の意を含めて血圧の測定）の測定を行なった。これはあくまでも現状における選手個々の基礎体力である。前掲の説明を理解して、足らざるを補うようにしてもらいたい。

「測定」

測定方法はオリンピック強化対策委員会管理部会で採用した方式によった。この方式によると、他の運動種目との比較、外国選手との比較ができたことと便利である。選手個々のデータをあげると複雑になるので、ここではその算術平均だけをあげておく。参考までに昨年六月に来日したルーマ

ニアの選手そのとき同時に行なった芝浦工大・日体大選手について関連項目のデータを附しておく。また本年六月日本代表バレーボール選手および東京大学一般学生のデータも附した。

「結果」

(1) 反応時間 音または光の合図とともに、できるだけ早く手もしくは足で電鍵をおすという方法を採用した。

われわれがかつて一般成人および東大野球部選手について測定した結果では、光で合図した場合の反応時間が230（単位1000秒）であったのと比較すると、ハンドボール選手の反応時間はかなり短かく優れている。しかし、ハンドボール選手のなかでは常識的に最も反応がすばやくなければならぬのはどうしたものであろうか。優れたG・Kは単純な反応以外のもの、たとえばボールがゴールのどの隅に投げられるかを事前に察知して、あらかじめその方向に身体を動かそうとするというような判断の優秀なものが一層重くなっているのがある。それにしても、反応は優れていた方がよい。

また反応時間のうちでも、ハンドボールの実際の動作に要求されるのは今回測定した単純局所反応ではなく、からだ全体をもつて合図に反応する全身反応、もしくは、ボールが左右上下いずれにこようかそれにできるだけ早く応ずる選択反応である。機会を改めてこの検査を行なってみたい。

(2) ハーフボードステップテスト 循環機能が優れているかどうかをみるテストである。100点を越えれば優れていると判断して差し支えない。オリンピック参加の選手の選手は全員100点を越えている。ハンドボール選手では、平均すると100点を越えているが、

検査・測定データ

種別	項目	G	B	F	全	ル	芝	日	東	バ	
		K	全	W	員	ー	工	体	大	レ	
人員数		5	16	19	40					24	
体	体重	kg	64.0	65.0	63.0	64.2	77.3	64.4	63.8		
	身長	cm	171.1	168.9	170.2	169.8	179.0	168.0	168.7	179.6	
	座高	cm	92.1	92.4	92.5	92.4	88.9	93.2	93.1		
	上肢長	cm	右	74.6	72.7	77.4	73.6	79.0	71.2	72.1	77.7
			左	74.6	73.1	77.9	73.8				
	胸囲	cm	89.1	89.4	88.4	88.9	97.4	90.2	90.8		
	伸腕	cm	右	26.7	26.1	26.4	26.8				
			左	25.9	26.8	24.6	25.3				
	屈腕	cm	右	30.4	30.0	29.3	29.7				
			左	28.9	29.2	28.1	28.6				
	手頸	cm	右	17.1	16.7	16.8	16.8				
			左	16.6	16.6	16.6	16.5				
	下腿	cm	右	38.6	36.9	36.9	37.1				
左			37.1	37.0	37.8	36.9					
手長	cm	右	19.4	18.9	19.3	19.1	17.9	16.5	16.7		
		左									
皮下脂肪	mm	3.2		3.5							
指極	cm	172.3	169.1	171.3	170.5	185.2	169.2	169.7			
筋力	背筋力	kg	162.0	149.4	161.8	162.1				130.0	
	握力	kg	右								
握力	kg	左									
垂直跳	cm		62.8	64.3	66.6	66.6				52.0	
										73.7	
サイドステップ	回			40.3	38.7					36.7	
懸垂	回		11.6	9.6	8.6	9.3				8.2	
			19.4	15.3	14.7	16.6					
デング	回			63.1	48.8					36.0	
体前屈	cm		12.7	11.6	10.1	11.1				13.6	
										13.6	
肺活量	cc		4556	4784	4619	4677				5048	
血圧	mmHg	最大	126.4		116.3						
		最小	69.6		61.4						
循環	点	ハンド		104.4	103.8					76.0	
		テスト									
反応時間	1/1000秒	手	192.7	178.2	184.1	177.0					
		足	198.1	206.1	193.0	192.9					
		手	224.4	236.6	228.8	223.9					
		足	281.4	236.9	267.3	245.6					

細かく検討すると、G・Kは4人中1人、F・Bは6人中2人、H・Bは10人中6人、F・Wは19人中5人が100点以下であり、77という低い者もいた。参考までに日本代表バレーボール選手では25人中約15人が100点以下であった。運動種目の特殊性が現われたものと思われる。とにかくすべての選手が100点以上になることが必要である。

(3)血圧 十分な安静時間後に測定した。したがって安静時血圧として信用できる。一般に選手諸君の年齢では、安静時最大血圧が140以上になるのは正常ではない。しかも140をこえた者は40人中3人であった、かなり高い率である。これが運動選手の適応現象であるかどうかは、こんご大いに検討する必要がある。

必要がある。3人については循環機能の精密検査を受けさせたい。

(4)肺活量 呼吸機能の示標といわれる。しかし運動種目、運動の優劣とは余り相関がないといわれる。但し肺活量が小さいのは良くない。

(5)体前屈 からだの柔らかさをみる項目である。数字が大きいほど柔らかいということである。東大生およびバレーボール選手の平均13.5に比較して決してよいとはいえない。手指の先端が床につかないものが4人あった。他の能力で堅いからだを補っているであろう。もっとも、身体を前に曲げるというだけでなく、身体をうしろにそらすなどいろいろな柔軟性も測定して検討する必要がある。

(6)上体起こし、ディッピング・懸垂屈腕 筋肉の持久力のテストである、上体起こしでは腹筋がいちばん多く使用される。50回/分はかなりよい値である。他の種目と比較できないのが残念である。ディッピング、懸垂屈腕は腕の筋力である。各自の体重に抗する筋の持久性である。体重を考慮せねばならぬから、この数字だけではなんともいえない。検討中である。

(7)ハンドステップ 敏捷性のテストである。

(8)垂直跳 ハンドボール選手のなかではG・Kが最も優れている。それでもバレーボール選手の平均74cmにくらべると非常におとつている。足のバネを強くする練習は、こんご考慮すべきことであろう。

(9)握力・背筋力 筋力は運動選手として普通である。

(10)体格 体格については、他の種目と比較し更めて検討したい。

以上いろいろと各検査項目について簡単な解説を試みたが、いちばん必要なのは選手各自が検査についてよく理解し協力してくれることである。不まじめな態度で行なわれた場合、その結果は全く無意味である。こんご腰々このような測定をおこなうつもりでいるが選手諸君の協力を望むや切である。

ハンドボールを身を以て体験していないので、独断的な点もあろう。御指摘、御指導にあずかりたい。

▽……東京オリンピックからハンドボールが除外された。東京オリンピック組織委員会のとつた行動は実に悪らつた。七月十三日のJOC総会で高嶋理事長はついに爆弾抗議をぶつけ、このことは新聞紙上で大々的に報道された。日本になじみの薄いカヌーや、自衛隊や警察官に限定された近代五種が加わつたのはわからない。「十八種目がくずれたら腹を切る」と高石IOC委員は豪語していたが、それがくずれて二十種目になった。いまだに「腹を切つた」ということは聞いていない。あんなシワだらけの腹を切つたって血も出ないだろう。第一に高石さんはハンドボールを知らなかつたらしい。それにアテネIOCの総会で、東、高石両氏はハンドボール開催の投票に不賛成の票を投じたという。全くあきれてものがいえない。屋内体育館、選手村がまだ決ま

っていない。この調子だとオリンピックはうまいかないだろう。「禍を転じて福となす」のことわざではないが、ハンドボールは除外されてよかつたと思う。オリンピックばかりがスポーツぢやない。これからはどンドン海外遠征して1968年のオリンピックに備えた方がいい。陸上競技、バスケットボール、サッカー(アジア予選)のように「出る」と負けではみつともないから……。1968年

うれしい女子実業団の誕生

＝楽書帖＝ 第七回

治 武 尾 篤

▽……ことしから女子実業団チームが生まれた。ご存じのように大洋デパート(熊本)、大崎電気(東京)、レナウン(東京)の三チームで、全日本総合選手に参加した。ホットニュースといつていい。バレーボールやバスケットボールのようにはなややかさはないにしても、いちどに三チームも生れたのには頭が下がる。「ハンドボールってどんなスポーツだい」なんて聞く人がいる折から、ま

までじつくりと実力をつけておく方が利口だ。
ずはうれしい話である。三チームの監督はいずれも関東学生リーグで活躍した人たちである。大学を卒業してから、ハンドボールに首を突つ込む人が少ないのはどうしたことか。チームづくりに努力してもらいたいものである。クラブチームやOBチームよりも実業団(社会人)チームをつくってみる気はないのだからか。名門といわれる早大、慶大、明大、関学の諸兄の奮起を望みたい。

(共同通信社記者)

時評

時評というには、いささか古い話で恐縮だ。さる六月の関東学生リーグで芝浦工大が優勝したとき、関東学連はその優勝を通算十度目と発表した。これは明らかに九度目の間違いで、関東学連はトンだ黒星をつけた。年々責任者の変る学連であつてみれば、こうしたミスも大目に見てやるべきことなのかもしれない。どうもハンドボール界というところは、記録に対して無頓着なのは困つたものである。こんどの場合も当の芝浦工大自身が気がつかないのが、ま

記録に対する関心を!

植が多く、空白個所や誤りもあつた。ところが、その誤つたまんまをことし(倉敷)のプログラムに再録していたのは、いささかあきれてしまった。つまり、昨年その一覧表が出たときだれもミス指摘したり、注意さえもしなかつたといふことになる。

心がけよ収集と整理

戦前の記録は戦災で焼失したり霧散してしまつて、個人所有に頼るほかはないそうである。しかし、少くとも戦後の主要大会の成績くらい協会の責任において保管すべきであり、そしてそれをいつでも実用出来るよう整理しておくべきだ。

協会の歴史もまもなく二十五年。ここで、創設いらいの記録を中心とした歴史の集大成を試みるべきではなからうか。

学連が優勝回数や平気で間違えるというのも本家の協会の記録への無関心の弊が影響していいないとはいひ切れまい。

▽……これは協会の人たちに要望しておく。全日本総合選手権の開催期日を十分考へることである。ことしは高校野球(甲子園)とぶつかつてしまい、ハンドボールは全くカゲが薄かつた。なんとかしてください。

(訂正) 先号当欄下段右から十一行目「全日本室内と全日本社会人室内の……」とあるのは「全日本学生室内と全日本社会人室内の」誤りでした。

× × ×

これまで御愛読いただいた「今月の問題」に代って、今号から「スポーツライト」欄を設けました。時期に合った話題、解説記事、人物紹介などがその内容です。第一回は人物紹介で、大崎電気の渡辺社長にライトをあててみました。

▽男性は金、地位、名声、ヒマがある
とよからぬ考えを起すものである。百人のうち九十九人がそうだろう。そのよからぬ考えをハンドボールに切り替え、チームを結成してみごと男子第2位。女子第3位に入賞させた立派な男性がいる。

▽存じの大崎電気の渡辺社長である。おそらく本人はくすぐったいだろうが、悪い気持はしないだろう。とにかくこの渡辺さんは立派すぎる。こういったハンドボールファンがいることは球界にとってはうれしいことである。渡辺さんはハンドボールを全然知らなかったというからオドロキである。それがいつの間にかハンドボール狂となり、男子に次いで女子のチームを結成した。そればかりでなく、全国くまなく歩いて選手をスカウトしたというのだからオドロキ、プラスオドロキである。女子チームを結成するとき、自からグラウンドに出向いて選手を説得し、あるいは監督に交渉し選手を集めた。こんな熱心な人は初めてだろう。「やる以上はトコトソマデ。二年以内に男女とも日本一にしてみせるよ」となかなかの強気である。

▽：渡辺さんは高松宮さまと仲が良い。宮さまが地方へ出られるときは、いつもお伴をすることになっている。宮さまと協会理事長の高嶋さんとは親しい間柄である。ハンドボールの大会には宮さまもお出になる。渡辺さんもお伴する。こんなことから渡辺さん——ハンドボールが結びついた。最初のうちはハンドボールはつまらなかったそうだが、いつの間にかスピード感あふれるゲームが渡辺さん

にくだくと社長の肩書きをはずし、会社
の先輩として面倒をみる。なかなかできないことである。男子がもし優勝したら特別休暇(四日間)をやる約束したんだ。どうしても勝ってもらいたい」といって芝浦工大との決勝戦で前半10分まで4-1と大崎がリードしたときは、手を打ってよろこんだ。すぐうしろに高嶋理事長(芝浦工大監督)がいるのも忘れて……、試合が終れば選手の宿舎まで自家用車を飛ばし、食事の心配までする。

ハンドボールにつかれた男



渡辺大崎社長

を魅了してしまった。ゴルフの腕前はシングル(?)とか。とにかくゴルフのうまいことは確かである。「最近のゴルフはギャンブル化している。一ホール何千円かのカケが横行しているのをみて、いっぺんにゴルフがいやになった」という。「バスケッボールはシュートした瞬間からプレイヤーの動きが止まり、ラグビーはホイッスル(笛)が多くてゲームが中断する。野球は投手対打者だけの勝負だし、ス

このへんは名マナージャーである。協会役員からも、ジャーナリストからも、選手からもなかなか評判がいい。「社長の道楽としては健全でいいですね」と水を向ければ「わたしはハンドボールが道楽です。ほかの遊びは不健康で全くつまらない。レナウンの社長にことばをかけたらレナウンもチームをつくった。レナウンの社長もきつとハンドボール狂になるだろう」とハンドボールのPRを忘れない。芝浦工大電気科の卒業生でハンドボール部出身なら無条件でスカウトする。高嶋理事長(芝浦工大監督)が鍛えた選手なら間違いのないという。したがって渡辺社長——高嶋理事長は仲がいい。それがゲームになると親友の間柄を忘れてゲームに熱中する。秋田の国体で、だれをスカウトするかみものである。

▽：生れは兵庫県で先祖は平家の落ち武者とかきいているが、いまはチャキチャキの江戸っ子(?)である。会社の仕事は重役にまかせて、自分は「ハンドボール一途」に精を出している。いやはやまったくらうらやましい話である。倉敷の全日本総合選手権には今夫人をはじめ愛児(愛人ではありません)を引き連れて応援、大会中にヒマをみて家族を四国見物に行かせるなど家庭サービスマも忘れない。渡辺さんとはそんな男性である。「ハンドボールのゆくところ、行かぬところのない渡辺社長、写真は全日本選手権の会場、倉敷青陵高グラウンドで……」

芝浦工大堂々の4連勝

第4回高松宮杯全日本学生ハンドボール選手権大会は6月28日から5日間、兵庫県豊中市の服部緑地競技場に全国から大学27チーム(棄権1)が参加して行われ、相次ぐ熱戦の末、決勝は芝浦工大と中大の関東同士の対戦となり、芝浦工大が勝って、ここに第1回大会らしい堂々の四連勝した。……

関西3強、初日に姿消す

▽一回戦(六月二十八日)

桃山学院大	20	4	岐阜大
日体大	12	5	関学大
芝浦工大	24	1	大阪学大
東北学院大	13	7	立命館大
慶大	14	10	関学大
神戸大	(不戦勝)	教大	
法大	17	10	大阪府大
明治大	21	4	大阪歯大
熊本商大	10	8	順天堂大
東北大	14	6	大阪経大
中央大	11	9	同志社大

○：関西勢が、特に関大、同大、関学の関西リーグの上位三チームが、よい所なく敗退した。春のリーグ戦で初優勝しこの大会でも有力候補だった関大が、やや一方的に日体大に敗れたのも不甲斐なかったし関学が好調を伝えられていたとは云え関東二部の慶応に食はれたものも大番狂せだった。慶応はこれで一昨年の大会の雪じよくを遂げたワケだが、関学は若い選手の不精彩に誤算が生じた。同大はチーム力で優り乍ら、前半拙攻が多く、延長に入ってから一点も奪えなかったのは、明らかに気力不足だ。地方勢では東北学院大と熊本商大の充実が目についた。

▽二回戦(六月二十九日)

早大	17	5	東北大
日体大	18	9	桃山学院大
立大	9	4	法大
中京大	8	3	明太
芝浦工大	9	2	甲南大
慶大	8	7	京大
中京大	14	9	神戸大

○：中京大が神大を破ったのは殊勲だ。中京大の実力は大会前一心マークされたが、昇り坂の神大を破るとは思わなかった。中京大は個人の優れた突進力で積極的に攻めたのがよかった。このほか、京大桃山学院大、甲南大が敗れて、この日で関西勢(十二校)は全部姿を消した。優勝候補の芝浦工大は軟かいグラウンドに災いされたか動きが鈍く、珍しくもその得点が一ケタに終わった。同大を破って調子づく中大は、明大につけ入るスキを与えず、春のリーグ戦の不振をはね返す健闘ぶりだった。

中京大、あざやかな攻撃

▽準々決勝(六月三十日)

日体大	11	(5-1-7)	8	早大
-----	----	---------	---	----

○：春のリーグ戦で日体大を破った早大はこの日も自信満々で気力のある攻防をみせたが、後半バックスに疲れが見えそこを巧く日体大につけ込まれた。日体大の出来もかんばしくなかったが、後半守

備を固めて早大を1点に封じたので勝つことができた。

中大のFWは好調で、とくに後半はボールがよく回り、立大のディフェンスをゆさぶり、前半の劣勢を一挙にばん回して勝った。中京大(5-1-5) 7慶大

○：慶大は学業の都合でFWを二人欠いたうえエースのRI諏訪が開始早々負傷して退場する不運に見舞われた。後半バックスの木本、橋本らが攻撃陣に参加して得点を狙ったが、そのためデフェンスが乱れ、羽上田、近藤、伊藤の中京大FWにまんまと攻略された。慶大にとっては悔やまれる試合だったろうが、中京大の鋭い攻撃はあざやかなものがあった。

芝浦工大(9-1-2) 3熊本商大

○：すべり出し熊本は1-1から2-1と好調に攻撃しこれほど思わせたが、その後は芝工大が実力をみせて一方的に押しまくった。しかし、芝工大はラフなシュートが多く、決してはめられる勝ちぶりではなかった。

日体、弱気て押し切れず

▽準決勝(七月一日)

芝浦工大(8-1-6) 2-1-4
延長
4-1-10 11日体大

○：事実上の優勝戦というだけあって接戦した。前半23分 8-3と芝工大が5点差をつけたときは、芝工大の楽勝を思わせたが、そのあと日体大は24分30秒、27分、28分10秒と連続ゲットして2点差に詰め前半を終った。

【体】	崎井田原上友林山山木	49		
【日】	島蓮沢石田三小北林栗青	32		
GK	FB	HB	FW	主審
深江	深江	深江	深江	深江
ST	反則	59	49	

【芝浦】 浦倉保村藤村藤山田村智
【中大】 勝久中野野佐金森北越

(交代) FW川上

後半、日体の好調が続いて、ベイスは完全に日体のモノとなり1分、5分と得点をあげ8-8のタイ。6分20秒に芝工大は前半の8点目から18分目にしてようやく1点をあげ9-8。しかし、日体は10分青木、12分小林と好シュートを放って逆転に成功した。ところが、このあと日体大はノーサイドまで20分近くあるのに攻撃機をつかむとストリーキングでボールをキープ、深江主審から攻撃勧告を受けるほどの徹底(?)した逃げ込み作戦をとった。この弱気はかえってタイム・アップが近くなるに

つれ、逃げ切りを意識しすぎて、リングに固さが加わった。28分パスミスで芝工大GK谷のキャンのよい出足に拾われて逆襲に転じられた。このボールを29分、芝工大はゴール前FTからフロートイングのCH斉藤に渡し、斉藤はあざやかに、ゴール左サイドギリギリに決めて10-10とし、延長戦に持ち込んだ。

延長にはいると芝工大FWは、まるでそれを待っていたかのように走り出し、あっという間に15-10と開き勝利を決定づけた。

中大、中京に逆転勝ち

中大 14 (5-7) 12 中京大

○：中京大は、初めから多彩なFW攻撃で中大陣を割り前半7-5とリードした。しかし中大はこの劣勢にもあわてず後半じつくり攻めて7-7のタイとしてからは、うまいパス・ワークで中京大守備陣をくずし、試合運びに一日の長をみせて押し切った。しかし、こ

えよう。一方慶大は今春教育大を破って関東リーグ一部へ昇格しその意気さかん。また日体大、中大は今春リーグでの低調なカラをつき破ろうとフアイトに燃えていた。事実この三校は東海地区代表の中京大とともに今大会最も好調をしめし、その気力だけでもさ

れまで戦った中京大の試合ぶりは大いにたたえられてよからう。

京	川田川島築橋藤場田本精	30
中	北吉森葛都高近馬羽伊藤	24
GK	FB	
HB	FW	
村田	(主審)	
03	ST	32
	反則	

京	川田川島築橋藤場田精演	41
中	北吉森葛都高近馬羽伊藤	37
GK	FB	
HB	FW	
栗青	(主審)	
37	ST	24
	反則	

▽三位決定戦(七月二日)
日体大 22 (15-9) 19 中京大

▽決勝戦(七月二日)
芝浦工大 12 (5-5) 10 中央大

芝工大秀れた体力活かす

光る中京大の活躍 力強さ欠いた関西勢

すまず好調の波に乗り明大、立大、中京大を破って決勝進出、芝浦工大をもう一歩というところまで追いこんだあたりみごとだった。本大会こそ我が手にと滴を持した早大は日体大にうちやられ、日体大は準決勝で芝浦工大と対戦。タイムアップ寸前までリ

波があり過ぎる感があった。それに調子もあまりよくなかっただけに連日苦しい試合を展開し、苦しい追われる立場を感じさせた。しかしそれをなんとか切りぬけ優勝へ結びつけた気力は賞められるだろう。芝浦工大はこれで四年連続優勝の偉業を成したわけである。そのほか、熊本商科大学、桃山学院大学の健闘、予想以上のダークホースぶりを発揮した中京大学など印象を残したチームとしてあげられる。全般的にいって今大会のように降雨、ドロコンの悪条件のなかで行なわれる試合というものの経験は選手にとっても尊い勉強になっただろう。明年は仙台でこの大会が開催されることになっており、大学女子の部も明年から設けられるはずである。 — 中 —

たこともめづらしい。大会前の予想では関西リーグ上位三校と関東リーグ上位校との衝突に焦点がおかれた。いざ幕をあけてみると関学は慶大に、同大は中大に、そして関大は日体大にそれぞれ一回戦で敗れ去り3強豪が一日で姿を消すところとなった。ドロコン試合とはいえせつかくの試合のヤマ場、チャンスを生かしきれなかったことも大きな敗因があったとい

まじいものがあった。内容も呼吸のあった好プレーを展開し気力で押し切ってしまったといえる。相手に反撃を与えぬくらい、積極的な攻撃ぶりが勝利を握った大きな原因だろう。ともあれ慶大の準々決勝進出、中大が同大を破ってま

どう転んでいたか判らない。22分、四回目の14米投を中大が失敗したあと、23分芝浦は金山がミドル・ショットを決め11-7とし、懸命な反撃をみせた中大を押えて逃げ切った。中大は要所で落とした14米投の拙さに涙をのんだ。芝浦としては会心の勝利ではなかったが、とも角、四連勝。第一回大会はいこの大会で18試合無敗である。

京	川田川島築橋藤場田本精	30
中	北吉森葛都高近馬羽伊藤	24
GK	FB	
HB	FW	
村田	(主審)	
03	ST	32
	反則	

芝浦工大、8連勝の偉業

早大 二位 関東学生春季リーグ戦

関東学生春季リーグ戦は五月十四日から六月十一日までの約一ヶ月、東京の駒沢球技場に一部八校、二部九校(千葉大は全試合不参加)が参加して行われた。

▽一部第一日(五月十四日)

芝浦工大 20-8 立 大
日体大 16-10 教 大

明 大 12-8 中 大
早 大 15-9 法 大

▽第二日(五月二十日)

日体大 20-12 立 大
早 大 13-9 明 大

法 大 14-12 中 大
芝浦工大 13-7 教 大

▽第三日(五月二十一日)

中 大 16-7 教 大
日体大 15-11 法 大

芝浦工大 12-10 明 大
早 大 15-8 立 大

▽第四日(五月二十七日)

芝浦工大 19-8 法 大
立 大 13-3 中 大

明 大 15-13 日体大
早 大 15-8 教 大

学芸大 7勝1敗 ③東大 6勝2敗
④防大 5勝3敗 ⑤順天堂大 3勝4敗
⑥茨城大 3勝4敗 ⑦千葉工大 2勝6敗 ⑧武蔵工大 2勝6敗 ⑨千葉大 棄権(8敗)

▽第五日(五月二十八日)

芝浦工大 17-9 早 大
日体大 13-11 中 大

○…一部は芝浦工大がその実力低下をいわれながらも、北村、越智、金山、佐藤らのFWがスケールの大きい攻撃をみせて苦しい試合はあった。ともかくも星を落とさず8シーズン連続、9度目の優勝をとげた。

▽第六日(六月四日)

明 大 12-9 立 大
早 大 15-13 日体大

芝浦工大 14-7 中 大
明 大 8-5 教 大

▽第七日(六月十一日)

立 大 14-11 法 大
早 大 13-9 中 大

芝浦工大 13-9 日体大

【順位】①芝浦工大7戦7勝 ②早大6勝1敗 ③明大5勝2敗 ④日体大4勝3敗 ⑤立大3勝4敗 ⑥法大2勝5敗 ⑦中大1勝6敗 ⑧教大7戦7敗 (二部) ①慶大8戦8勝 ②東京

雪谷の秀れた個人技にあり、対芝

その安定した試合ぶり、リードされてもペースをくずさず、勝機に敏な攻防は他校のそれをしのいでいた。

二位となった早大は一昨年秋三校同率となったほか、最近では関東リーグで単独二位などという上位は昭和二十八年秋優勝していら

れで、1勝しかあげられなかったのはちょっとひどすぎた。立大、法大は暴れん坊らしい試合



関東学生春季リーグ芝浦工大対日体大戦から、日体大ゴール前の混戦

容は上の部。ムラ気をなくしてもう一步安定さを増せばさらに好チームとなる。

名門教大は最終戦に立大と14-14の熱戦を演じた以外はまるつきり。深美、及川の卒業のアナがこれほどまで響くとは思わなかった。巻土重来を期待しておこう。

○：二部では教大に代って秋から一部にもどる慶大が若手FWの活躍とFB木本、CH橋本の巧技で危なげなく全勝した。その他では学芸大が着実な進境を示したのに引きかえ、かつての一部校東大、防大などがそろって不出来。順天堂大の負越しもいただけない。初参加の千葉工大は精いっぱい健闘で好感を持てる試合ぶりだった。



芝浦工大対日体大戦から—芝工大金山のシュート、カットするは日体大バックス

関大、初の優勝飾る

関学は三位に 関西学生春季リーグ戦

関西学生春季リーグ戦は五月四日から五月二十八日まで西宮球技場に一部八校、二部七校が参加して行われた。

▽第一部第一日(五月四日)

同 大 24-6 大阪府立大
関 学 17-0 立命大
関 大 16-8 京大
甲南大 8-7 神戸大

▽第二日(五月七日)

関 学 19-6 大府大
同 大 9-4 立命大
関 大 13-11 甲南大
神 大 11-10 京大

▽第三日(五月十三日)

関 大 18-4 立命大
同 大 17-9 甲南大
神 大 11-8 大府大
関 学 15-10 京大

▽第四日(五月二十日)

関 学 11-6 甲南大
同 大 17-6 立命大
神 大 24-13 京大
同 大 20-7 大府大

▽第五日(五月二十一日)

▽第六日(五月二十七日)

京 大 11-8 立命大
甲南大 8-6 大府大
同大 15(延長引分) 15 神大
関 大 18-16 関学

▽第七日(五月二十八日)

甲南大 9-8 京大
大府大 13-4 立命大
関 大 16-13 神大
関 学 15-14 同大

【順位】①関大6勝1敗 ②同大5勝1敗1引分 ③関学5勝2敗
④神大4勝2敗1引分 ⑤甲南大4勝3敗 ⑥大府大2勝5敗 ⑦京大1勝6敗 ⑧立命大8敗
【二部順位】①桃山学院大6戦6勝 ②大阪市大4勝2敗 ③大阪経済大3勝3敗 ④大阪歯科大3勝3敗 ⑤大阪学芸大2勝4敗 ⑥大阪工大2勝4敗 ⑦大阪大1勝5敗

○：第一日からダークホース神大

△同大
▽二位

が甲南大に敗れるなど混乱の幕開きだったが、一部校の実力が伯仲して見応えのある接戦の連続となった。第四日までは関大、同大、関学の3強がこれまで同様に無傷で勝ち進んできたが、第五日関学が神大に、関大が同大と大熱戦のすえ敗れ球趣は一段と盛り上がった。過去二十四回優勝、8連勝を狙う関学は、今春レギュラーの大半を卒業で失い、多くの新人を登用した。前哨の西日本学生大会でみごと優勝を飾っておりさすがはと思われたが、神大は荏林、西本を中心にしたFWがよく攻めて、前半9-5と優勢に立ったのが大きく、創部らしい初めて関学から勝利を得た。関学は翌日、関大に敗れて優勝争いから一步退いたが、激しい星のつぶし合いから、神大が同大を引分けに引きずり込んだために、最終日の二試合に優勝がかげられるという激戦になった。

た。優勝した関大は高村、寺田、池上、それに新人の近藤(中京商)がよく働きFWで他校に差をつけたのが勝因だった。同大も関大に劣らぬ布陣で、しかも関大に勝っているだけに惜しまれる。関学はやはり、卒業の痛手が響いたが最終戦で同大を破ったあたりは名門の名に恥じず、秋には再び戦力を整えて優勝候補の最右翼に列するだろう。

神大は緒戦に敗れたが後半よくやった。今季のリーグ戦をおもしろくしたのは、終盤の神大の奮闘ぶりが第一因であり、敢闘賞モノである。

B級では甲南大がまとまりをみせ4勝したが一部での勝越しはおそらく初めてだろう。京大は攻守に中心を欠いてチーム力が一段落ちたがカムバックを期待しておく。府大はまずあのていどが順当だが、攻守に粘りが出て来ており存在となろう。立命館大はついにどん底と化した感じで七試合で32点とおそまつすぎた。二部転落もやむを得まい。

○：二部では予想通り桃山学院大が文句なしの試合運びで余勢をかって宿願の一部入りまで果した。一部でも相当よいところまで食いこむのではなからうか。その他はドンダリの背くらべて似たりよったりの攻防をみせたにとどまり、話題にとほしかった。

東海は中京大圧倒勝ち

国立 神大、京大を破り優勝

東海学生春季リーグ戦は五月二十九、三十の両日、一部五校(静岡大棄権)、二部五校(名古屋大棄権)が参加して、名古屋の中京大グラウンドで行われた。

▽一部

中京大 26-2 名工大
名工大 17-7 岐阜大
名工大 10-7 岐阜大
中京大 19-6 名工大
中京大 14-6 名工大
中京大 23-5 岐阜大

【一部順位】①中京大4戦4勝
②名大3勝1敗 ③名工大2勝2敗
④岐阜大1勝3敗 ⑤静岡大(棄権不参加)4敗

▽二部

愛知学芸大 19-9 三重大
滋賀大 19-7 県立三重大
滋賀大 19-8 三重大
愛知学芸大 17-7 県立三重大
滋賀大 13-10 愛知学芸大
三重大 14-8 県立三重大

【二部順位】①滋賀大4戦4勝

②愛知学芸大3勝1敗 ③三重大2勝2敗 ④県立三重大1勝3敗 ⑤名古屋市立大(棄権不参加)4敗

○：一部では中京大が文句なしの優勝をとげた。昨年の強力FWが不動で、バックスに好新人が加わって、攻守のバランスがとれた。そのうえ、慎重な試合運びをみせたので、他チームは全く手の施しようがなかった。

その他ではやはりまとまりという点で名大が他をしのいでいた。今期から一部に上がった岐阜大は精いっぱい健斗だったが、名大には試合の展開力で一步をゆずった。二部では滋賀大が愛知学芸大を破るほどの躍進ぶり首位となった。

第五回国立七大学選手権(リーグ戦)は八月四、五、六の三日間、札幌市の北大グラウンドで行なわれた。

京大 17-8 北大

神大	16-9	東北大
東北大	14-10	阪大
名大	12-7	東北大
京大	11-4	東北大
神大	22-5	東北大
名大	11-4	阪大
京大	16-4	阪大
東北大	9-8	名大
神大	16-4	東北大
京大	12-7	東北大
東北大	19-5	阪大
神大	18-7	名大
東北大	11-5	東北大
名大	9-4	東北大
東北大	13-6	北大
神大	17-7	阪大
京大	13-11	名大
東北大	7-6	東北大
北大	11-8	阪大
神大	14-13	京大

【順位】①神大6戦6勝 ②京大5勝1敗 ③東北大3勝3敗(得点63) ④名大3勝3敗(得点58) ⑤東大3勝3敗(得点48) ⑥北大1勝5敗 ⑦阪大6敗

○：関西一部の神大の優勝は順当のところ、第一回大会いらい、2度目の優勝を飾った。4連勝を狙う京大との最終戦は優勝を決めるにふさわしい好ゲームとなり、前半は神大、後半は京大が、それぞれリードしたが、神大は前半の優位も手伝って、追われながらも余裕があり逃げ切った。

早大、関学を破る

恒例の東西大学定期戦

第十六回関学対早大定期戦は六月二十二日、豊中市の服部競技場で行われた。伝統の一戦らしい力のこもった試合となったが、早大は春の関東リーグですっかり自信をつけ、積極的な攻撃をみせて、昨年に続き連勝、対戦成績は早大の5勝11敗となった。

早大 10(5-3) 8 関学

▽OB戦

関学OB 17-2 早大OB

※

第十四回立命館大対明大定期戦は、六月二十六日、豊中市の服部競技場で行なわれた。立命館大はすべり出し好調だったが次第に体力の差が現われ、後半は明大の一方的な試合となった。これで対戦成績は明大の12勝2敗。

明大 13(4-1) 3 立命館大

※

第十四回京大対慶大定期戦は六月十七日、横浜市の慶応競技場で行なわれた。前半は互角だったが、後半慶大FWはよく走り、三年ぶりに勝利を握った。対戦成績は慶大の10勝3敗1引分。

慶大 21(9-7) 12 京大

▽OB戦

慶大OB 13-7 京大OB

※

第十一回同志社大対立教大定期戦は、七月十六日豊中市の服部競技場で行なわれた。互いに持味を生かした見応えのあるFW戦となったが同大が前半の1点差をまもり切って辛勝。対戦成績は同大の7勝4敗となった。

同大 18(9-8) 17 立教大

▽OB戦

同大OB 9-8 立教大OB

※

第八回甲南大対慶大定期戦は六月十八日、横浜市の慶応競技場で行なわれた。慶応が攻守に鋭い動きをみせて甲南を降し8連勝した。

慶大 15(8-3) 6 甲南大

▽新人戦

慶大新人 15-11 甲南大新人

※

第七回名大対大阪定期戦は六月十日、名古屋市の東山名大グラウンドで行なわれ延長のすえ、名大が辛勝した。

名大 9(3-3) 4-4
11-10 8 阪大

対戦成績は名大の5勝2敗。

一 激戦の東西リーグ

関東は今春のリーグで八連勝した芝浦工大にむかふ大学はどこかに焦点が集められる。芝浦工大は春のような荒けずりがなくなり、RW佐藤、FC北村を軸とした早いパスプレーとシューティング力、見ごたえがある。バックスも勝負を中心としたフォロの早いデフェンスも堅い。しかし全日本学生でこの芝浦工大をもう一步のところまで追いこんだ日体大と中大、それに全日本学生で日体大に最後にうっちゃられた早大あたりが芝浦工大の連勝を阻むのも有力なチームとしてあげられる。ただ日体大はシーズン中旬韓国へ遠征するので二軍をもってその間対戦せねばならぬだけに苦戦となる。しかし青木(義)、栗山、小林とそろえたFWはそのスピードを、誇るだけのものを持っている。デフェンスにもろい点があったが最近呼吸もあって来たので楽しみにした。中大は調子の良し悪しはげしく波のあるチーム。大脇をFCとしたFWはホロが早く、調子が出たときは爆発的威力を持つチームだ。春季二位の早大は今夏ジャンプと練習を積み恵谷、森岡、長沢のFWはセットプレーがうまくなった。機をみて放つ長短

シューティングは実に鋭くなってきた。春のプレー以上に磨きがかかり、久保、山田を持つGK陣も心強く、秋季リーグにどんな試合ぶりを見せるかが楽しみ。

この四者に春季リーグ三位の明大であるが、前記四者に決してヒケをとらぬだろう。最後のうひと押しというところでいつも息がきれるだけに、それさえなくなればこの明大を加えた五者の優勝争いとなる。これを追う立教は昨年からはとんどメンバーも変らず今春季リーグで法政、中大、教大を破り自信を深めただけに秋季リーグは縦横にあばれまくるだろう。法政はまだまだ8番吉村の出来いかに勝敗の鍵を握っていた。そのカラを破れば恐ろしい試合ぶりをするだろうし上位進出にも期待出来る。今春一部へ返り咲いた慶大は全日本学生において関学を破り、全日本総合でも好調で今夏は二度の強化合宿、まさに調子上々なのでダークホースぶりをいかんなく発揮するであらう。

二部では教育大、学芸大、防衛大の首位争いとなる。教育大は少し低調気味だけに一層の奮起を望みたいし、学芸大、防衛大、東大を加えエキサイトした試合が展開されるだろう。

一 競り合う関西三強

関西では、今春最終日までもつれにもつれた優勝争いが再現されそうなる形勢である。

本来なら常勝関学の戦力低下の虚をついて関大、同大あたりが、この機に確固とした足固めをするところだが、どうも今春宿願の初優勝を遂げた関大にしても、同大にしても、もろさをかくしきれない。

それが期待されながらも、全日本学生や全日本総合での早期敗退となって現われるのである。春、三位に落ちた関学はその後の猛練習によって、見違えるようになったくまじさを備えてきた。殊に秋のリーグ戦では十四年間優勝以外の記録を残していないという「伝説」を忘れてはならない。

春の順位関大、同大、関学の逆の順が、秋の優勝予想という声も決して裏付けのない話ではない。

また、見落としてならないのは神大である。春は緒戦でつまづき終盤での健闘も空しく四位に終わったが、当然前記三校の角逐に加わるだけの実力はあり、おもしろい存在になる。三強にとっては対神大戦の星いかんが優勝争いに大きく響いてくる。それだけ神大の存在はクロ

ーズアップされよう。二部に上がったばかりの桃山学院大の戦力も侮れない。全日本総合では早大と延長の熱戦を演じたほどだし、思わぬ大金星をあげて、波乱の「目」になる可能性は十分である。甲南大、京大、府大は優勝を狙う実力はないにしてもそれぞれ特徴を持ったチームだけに調子になれば意外の躍進をとげるのではない。

一 王座は関東側有利?

ところで、学生界秋のメインイベント第四回全日本学生王座だが、前述のように東西両リーグとも情勢こんとんで、どんな顔合わせになるか見当がつかない。ただ全日本学生などの試合ぶりからすると、どのようなカードになっても、今年には関東勢の方が有利のようだ。ホームコートという利も手伝えばなおさらである。昨年は関学があざやかに芝浦工大の連勝記録にストップをかけ、記憶すべき大会となったが、ことしも前年におとらぬ好ゲームの展開を今から待望しておこう。

王座戦の前に東日本、西日本それぞれの優勝大会(予選)が行われるが、西日本は関西リーグの覇者が山口大あるいは熊本商大を問題としないだろう。そう。注目されるのは東日本の中

京大(東海)の存在だ。東海ナンパワマンから今では全日本学生トップレベルに成長したこのチームが、果して関東リーグの覇者を向こうに回してどんなファイトを見せるか、この秋の一つの「関心事」である。

一 楽しみな新人の成長

このほか関東に、以前から話のあった日大の参加が確実にあったというのもニュースである。近年各種スポーツにめざましい躍進をけている日大の参加は、関東学連に限らず学生界のためにも歓迎されることであり、その試合ぶりが大いに期待されよう。また、今春、東西両リーグは非常に多くの新人が登場している。しかも、その多くは、チームの重要なポジションにあり、将来の学生界の中心選手として囑望される素質を持った選手ばかりであった。これら新人が、夏の激しいトレーニングを経て、どのように成長したかを見るのは非常に楽しみであり、対象的に今シーズンを最後に学窓を出る四年生選手が、悔いを残さぬ好プレーを随所に発揮されて、一段の話題を呈されるよう望んでやまない。

【駒沢球治郎】

実業団ハンドボール界の活動もようやく軌道にのった。

今秋第二回目の全日本実業団選手権が東京で開かれることになった。昨年広島で行なった第一回大会にはエントリは八チームあったが、実際には六チーム(男子のみ)が参加しただけで、内容的には決して満足できるものではなかった。

しかし、これまで極く一部の地区で一チームか二チームしか存在しなかつた実業団球界がともかく、選手権大会を開くまでにたどりついたのは、球界のために大いに喜ばしいことであつた。

群を抜く大崎電気

さてこの実業団選手権大会の開催を契機にして、各地で続々と新チーム結成のニュースが伝わってくるのはたのしい。今夏の全日本総合選手権には男子二、女子四チームが参加した。

実力的には男子では芝浦工大の優秀選手を計画的に入社させて名乗りをあげた大崎電気(東京)が一頭地を抜く存在。すでに結成第一年度の昨年は、全日本実業団優勝、全日本総合一位、全日本総合室内二位、国体三位と全国でもトップクラスの實力をみせ、今夏も全日本総合で準

優勝している。メンバーのうち五人が世界選手権の日本代表になつていゝるのもわかる通り、そのスタッフからいってこの成績は順当。しかも社長自ら優秀選手のスカウトに乗り出すなど意欲的な補強ぶりをみせているので、当分実業団ではこのチームに比肩できるチームは生まれまい。

今夏の全日本総合に出場した住友化学菊本(愛媛)は、この大会に四年連続出場で、団体にも何度か出場している。実業団球界では三菱レイオン(広島)と並んで最も古顔のチームである。両チームとも地区大会では優秀な成績をつねに残しており、年々チーム力を上げて全国的にみても相当よいところまで行けるようになった。殊に三菱レイオンは第一回の全日本実業団で大崎電気と優勝を争い、9対8と惜しくも敗れはしたものの、その實力は高く評価された。

このほか中国地方には日新製鋼(広島)、淀川製鋼(広島)、呉造船(広島)、東洋工業(広島)、戸田工業(広島)などがあり、今春の西日本一般男子では呉造船がベスト・4に勝残するなど、その試合ぶりは注目されるものがある。

盛んな東海地方

中国地方と並んで実業団チームが相次いで生まれてきているのが東海地方である。

すでに昨年、新三菱重工(愛知)と東洋レイオン名古屋(愛知)の間で「中部日本実業団選手権」が争われた。このほか東芝三重(三重)、日本化成ゴム(三重)、本田技研(三重)、さら

には美濃繊維(岐阜)のチームがある。なかでも新三菱重工は地元の高校界から優秀選手をシーズンごとに幾人か補強し、成長の期待出来るチームを編成している。

この地方は周知のように愛知県に強チームが多い。一般男子の部でも相当高いレベルの試合が行なわれているだけに、実業団チームにとっては試合相手、練習相手に恵れている。昨年は二チームだけだった「中部日本実業団選手権」(十一月末)もことしは、参加チームも増えることだろうし初出場で岐阜の七人制選手権を握った美濃繊維など、楽しみなチームも多い。上野町公民館(愛知)と云う異色チームもある。

東京、大阪に新チーム出現を期待

こうした地方における実業団チームの活動に引きかえ東京、大阪にその動きが少く僅かに表面で活動しているのは大崎電気だけというのは寂しい。大阪では丸紅飯田をはじめ二、三のチームがその準備を進めていると聞く。やはり東京、大阪に実業団球界の運営をリードして行く好チームの出現がない限り球界の前途は楽観できない。

このほか一、二年前、函館ドック(北海道)、宇部曹達工業(山口)といったチームの名が登録されていた。宇部曹達はたしか全日本総合選手権にも出場しているはずだが、この両チームともその後の消息はあまり聞かない。また、昨年、東京で開かれた全日本総合室内に出場した桐生(群馬)のチームは、たしか岸スプリングというユニホームをつけていたと記憶する。これなどやはり会社の同好者組織の実業団チームだろう。

また同好者組織といえ九州で八幡製鉄(福岡)にその動きがあり、福岡県ではこのほか岡野バルブがすでにその活動を始めている。

強者出そろう女子界

ところで男子の実業団球界は、大崎電気を除いては、全国的なトップチームとはいえないが、女子の方は数こそ少いが逆に全国の最上位を行くチームが集っている。まず実業団ハンドボールの草分けともいふべき愛知紡績(愛知)だが、このチームは説明の要がないほどその球歴は輝やかしい。なかでも全日本総合五連勝の偉業は、おそろく今後とも破るチームが出てこないのではないか。しかも六連勝、七連勝を狙って補強、練習など万全の構えだけになおさらである。このチームに対抗すべく今シーズン相次いで生まれたのが大洋デパート(熊本)、大崎電気(東京)である。前者は高校界の強豪熊本市高と、全日本総合室内に2連勝した熊本商大の両チームの卒業生から成り、後者は関東の名門水海道二高、栃木女高のOGを中心としたチームである。すでに三者の競り合いは今夏の全日本総合で激しいものがあり、愛知紡、大洋、大崎の順となったが、今後は機あるごとに白熱した攻防戦を展開しよう。

レナウン(東京)本誌話題のチーム(参照)も意欲十分であり女子実業団球界は男子に先んじて、球界最高峰を行く強者が出そろふこととなった。

【黒尾 武】

男子中京商業、3連勝を飾る

—第12回全国高校選手権は7月30日から5日間—
 —富山県氷見市の氷見高グラウンドで男女合わせ—
 —72試合が行われた—

女子は半田初優勝、熊本の3連勝成らず

男子

前年度優勝校中京商業(愛知)など39校が参加

最後にモノをいった。

▽一回戦

桐生工 13(6-4) 高松一高
 (群馬) (7-1) 8 (香川)
 熊本市商 14(8-3) 12 鎌倉学園
 (熊本) (6-1) 9 (神奈川)
 博多工 13(8-4) 8 土佐高
 (福岡) (5-1) 4 (高知)
 岐阜商 17(11-1) 3 福井商
 (岐阜) (6-1) 2 (福井)
 岩国工 11(6-3) 6 新居浜工
 (山口) (5-1) 3 (愛媛)
 函館工 11(6-5) 9 兵庫工
 (北海道) (4-1) 5 (兵庫)
 天城高 6(4-0) 1 烏山高
 (岡山) (2-1) 1 (板木)
 ○：熊本×鎌倉、函館工×兵庫工の二試合がよかった。とくにダークホースといわれた兵庫工を函館工が破った一戦は好試合だった。兵庫のシュートはほとんど両ウイングが打ち、センタースリーの技巧な動きを生かした。一方の函館は直進的な巧法を常用し、技力の対戦といった印象だった。両館は兵庫にリードを許しながらも大きく放されず、後半17分逆転に成功してからは余裕が出た。一度はタイとされたが、すく加点して、逆に試合の主導権を握り押し切った。兵庫は力を出し切れず敗れたようだ。鎌倉×熊本は鎌倉の棄勝を思わせるすべり出しだったが、熊本は徐々に追いあげて後半18分初めてリード。点差が開いても熊本は攻守に落ち着き、その自信が

最後にモノをいった。
 修道高 11(4-3) 7 小杉高
 (広島) (7-1) 4 (富山)
 金沢商 10(5-0) 4 青森高
 (石川) (5-1) 0 (青森)
 塩山高 11(7-3) 7 福島高
 (山梨) (4-1) 4 (福島)
 墨田川高 10(6-2) 6 洛星高
 (東京) (4-1) 4 (京都)
 氷見高 10(6-4) 8 土浦高
 (富山) (4-1) 4 (茨城)
 熊本市商 9(5-4) 7 和歌山工
 (熊本) (4-1) 3 (和歌山)
 清水商 13(6-7) 9 函館工
 (静岡) (6-1) 5 4 (北海道)
 中京商 20(12-1) 13 桐生工
 (愛知) (9-1) 12 (群馬)
 高島高 13(5-8) 11 仙台二高
 (滋賀) (5-1) 6 (宮城)
 鹿兒島工 12(5-7) 7 大石田高
 (鹿児島) (4-1) 3 (山形)
 北佐久農 11(7-4) 2 大曲農高
 (長野) (4-1) 0 2 (秋田)
 盛岡一高 9(6-3) 4 天城高
 (岩手) (3-1) 1 (岡山)
 四日市工 12(7-5) 2 大宮高
 (三重) (5-1) 1 1 (埼玉)
 岐阜商 13(7-4) 12 添上高
 (岐阜) (4-1) 1 4 (奈良)
 寝屋川高 10(3-7) 6 博多工
 (大阪) (1-3) 3 3 (福岡)
 桜台高 17(7-1) 5 岩国工
 (愛知) (1-1) 4 5 (山口)
 ○：三年連続優勝を狙う中京商は前半風上の利もあって大差をつけ、後半風下に回ってもFWの速攻は少しもおとろえず着々加点、7分には20-9とリードした。

しかし桐生もセンタースリーを中心に最後まで健闘し、後半はタイに持ち込む闘志を見せたのは賞されよう。そのほか氷見×土浦、清水×函館、高島×仙台などの試合が、互角の実力同士の対戦となつて接戦を演じた。前日兵庫を破った函館は、この日も清水によく食いつき好試合となった。しかし清水は攻守に安定した力をみせ、函館の調子の出そろわぬ序盤にソツのない攻撃で4-0として機先を制したのが最後まで余裕を持たせることになった。岐阜×添上は初の延長となったが、岐阜は延長後に得た14m投の1点が効いて勝進んだ。なお盛岡一高はうま味のあるプレーをみせて東北唯一の勝ち残りとなり気をはいた。

○：中京商、熊本市商、桜台高が強さをみせた。地元氷見高が関東ナンバーワン墨田川高を破つたのは殊勲だ。氷見は気力において墨田川を上回った。墨田川は都会チームらしく洗練されたプレーで、ポイントゲッターのLW北井をうまく生かしていた。ここ一発という場面では氷見に力強さが感じられ、氷見が11-10とリードされたが、残り1分間に2点を入れ逆転したのもそれだった。熊本×塩山はバックスにややラフ・プレーが多かった難を除けば、気合のこもった好試合だった。塩山は後半8分7-7としたあと得点が止まってしまい、そのスキを熊本が連続ゲット、ここで勝負が決まった。

▽準々決勝

清水商 6(3-2) 4 氷見高
 (静岡) (3-1) 2 (富山)
 とともに連戦で動きが鈍く、FWはとくにそれがあがった。清水が前半10分で3点をあげ、その後ばかり得点がなかったのもその現われだ。守備力の優劣がそのままスコアとなった試合。
 桜台高 11(5-1) 1 鹿兒島工
 (愛知) (6-0) 1 (鹿児島)
 桜台の完勝だった。鹿兒島は前半こそセンタースリーが果敢に攻め込んで勝敗の興味をつないだが、後半はバックスのラフプレーもあり桜台の一方的ゲームとなつてし

まった。

中京商 6 (1-1-1) 5 熊本市商 (愛知) (熊本)

激戦だった。中京は前半1点にとどまったがこれは軟かいグラウンドにわざわいされたものだ。熊本としてはこのスキをつくべきだったが、中京のデフェンスの動きをくずれなかった。後半も全く互角の戦況だったが、中京は19分20秒LW餅原の殊勲のシュートで辛勝した。

盛岡一高 11 (5-2-2) 3 寝屋川高 (岩手) (大阪)

盛岡はバックスの堅守もあり、寝屋川を完全に自分のペースに引きずり込んで完勝、とくに後半は一方的な経過だった。寝屋川は前半12分から全くFWの動きがなくなりでは勝味はなかった。

▽準決勝

中京商 13 (7-4) 9 盛岡一高 (愛知) (岩手)

東北勢のベスト4進出は初めてであり、盛岡の健闘はたたえられて

岡村沢本川村川葉田藤地村

木藤橋外内村千吉齋菊西

中京 牧谷 祐藤島松藤忠木野本原

深近小末安深鈴坂坂竹餅

20 30

ST 反則

21 16

23 24

21 35

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

みせ、前半9シュートのうち7本を得点に結びつけ優位に立った。盛岡は14m投二本を落とすなど確実味に欠け、後半LW西村を中心としたがんばりも及ばず惜敗した

桜台高 15 (4-1-4) 4 清水商 (愛知) (静岡)

両軍とも立ち上り堅くなり最初の5分間は無得点、その後息詰まるような試合となりそれが最後まで続くという力戦となった。互いに美技の応酬から二進一

退を続け10-10で延長戦に入った。桜台はようやくその地力を発揮、RW近藤(世界選手権出場)の活躍もあり延長前半をリード。後半清水はLI飯田の連続ゲットで追ったが及ばず涙をのんだ。桜台の勝利にはGK渡辺の好守が見のがせない。清水は延長前、勝機があっただけに惜しい敗戦だった。

▽決勝

【中京商】 13 (7-4) 9 盛岡一高 (愛知) (岩手)

東北勢のベスト4進出は初めてであり、盛岡の健闘はたたえられて

岡村沢本川村川葉田藤地村

木藤橋外内村千吉齋菊西

中京 牧谷 祐藤島松藤忠木野本原

深近小末安深鈴坂坂竹餅

20 30

ST 反則

21 16

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

23 24

メモ帖から

岡村昭二

○会場の水見は「ゼロの焦点」で脚光をあびた能登半島の東海岸、富山湾のふところにあたる。水見を「ひみ」とよむ。当地は大昔から海と山のさちに恵まれていたので集落地帯がで

き、奈良朝初期に「渚国」の海辺に「のろし」が設けられた。従ってこの一帯を名づけて水見と呼ぶようになったと土地の史家は言っている。「のろし」の所在地が朝日山にあったが、今大会会場の水見高校はこの山頂にある。こは、しん気楼の浮ぶ美しい海面を見下し、一方はるか彼方に幽幻の立山連峰望むことができる。

○この土地でまず感心することは、町全体を通じハンドボールが大変な熱の入れ方だ。ここ数年のうちに全日本選手権、国体という二つの大きな大会を行なったが、何れも観衆がどっと押しかけさすがの広い校庭も足の踏み場もないほどであった。

○開会式でハンドボールの選手入場は、他競技に比べ実に立派だという定評がある。今大会は海上自衛隊のプラスバンド行進と小・中学生による鼓笛隊行進がありそれがいっそう開会式にはなやかさをそえた。

○高松宮妃殿下のお言葉のさい、ひしめく観衆も一瞬水を打ったような静けさになった。はっきりと透ったお言葉であったが並いる人の胸に熱いものを感

じた○大会運営は一糸乱れないほど組織的で計画的で、しかも協力的で感心した。一言に言えばこれは指導者がよいからだと思ふ。黙々として働く縁の下

の力もちが何人もいなくてはこれだけの成果は望めない。数年前の全日本大会のときをふと思

出す。大会二日目だったと思ふが大変な豪雨に見舞われた。夜が明けるころには幸い雨は小雨

になったが、グラウンドは水田のようになってしまう。おま

けにグラウンドは排水が悪い。しかしゲームができないとい

って大会を延期するわけにはいかない。そこで早朝水見高校の選

手も役員も学校の清掃用バケツと農具を動員して排水作業と砂

運びにかかった。作業はたっぷり数時間かかった。シャツもパ

ンツも泥沼で泳いだようになっ

ていたが、しかしだれ一人として不平をいう者はなかった。お

かげで予定通りゲームができるほどになったが、作業を行な

った水見高校は当日のゲームでも大いに奮闘したことをいままも忘

れることはできない。

○技術について感じたことは、男女共技術の程度が非常に接近したことだ。ことに女子の技術が相当高くなった。ただ男子の

チームのコンビについてはまだまだ研究の余地がある。それにはお互いの献身的な心の結果が必要であるけれども、基礎の技術も忘れてはならない。

○ゲーム・マナーについては苦言をいわざるをえない。「故意」「又は故意と思われる動作」の原則をしばしば見つけた。しかも相当高いレベルのチームによく行なわれていた。このことはスポーツマンとして、高校代表選手として恥ずかしいことであり残念なことであった。行なうプレイヤーもよくないが、指導者の責任でもある。ハンドボールを通じて人間形成を希求する」という崇高な立場からはこの行為はその逆行であると識者は断言するであろう。指導者も選手も「勝つことのみ」にこだわらないことが大切だ。

中京商 13(5-6) 12 桜台高 (愛知) (8-6) (愛知)

前年度決勝を争った両チームが奇しくも再び対決。開始後2分桜台はCF吉金がジャンプシュートを決め先行した。中京もすぐLW餅

点00000034410
台 山口 居山村藤川金村林
【桜台】 鳥青河近小吉山小
GK FB HB FW
ST 則
反則

【中京】 柏藤島松藤忠木野本原
中牧合 深近小末安深鈴坂竹餅
点00000041107
18 28

原がゲット、以後それぞれ14m投を含めて基礎技術の上立って洗練されたハンドリング、パスフューントを使いこなして好試合を演じた。20分桜台は6-3とリードしたが、中京は懸命に追い込み6-5で前半を終了。後半にはいるや桜台は再び脚力を生かしたあざやかな速攻で得点を重ね10分には11-7と4点差となった。しかし中京も13分から19分までに驚異的な反撃をみせ11-11とタイに持ち込んだ。このあと桜台はRI小川の得点でリードしたが、粘る中京は21分LW餅原が同点のシュート。そしてタイムアップ寸前、RW深谷忠が中京商三連勝を決める劇的な殊勲のシュートを放ち、G

K右上を鋭くついで、逆転劇が演じられた。

女子

前年度優勝校熊本市高 (熊本) など35校が参加

明善高 19(10-4) 6 四日市高 (福岡) (10-2) (三重)
静岡城北 6(6-1) 5 徳山高 (山口)
有磯高 12(7-3) 3 彦根西高 (富山)
熊谷女高 9(5-2) 3 那賀高 (埼玉)
○：当然のことながら得点力に優れたチームが勝ち進んだ。僅少差を守り切るいわゆる守勢のチームが多かった高校女子界では、迫力という面で物足らぬものが感じられていた。今大会ではそうした傾向がなく活潑な攻め合いが多くなったのは喜んでよいことだろう。

▽一回戦
湧谷高 6(2-2) 5 平塚江南 (宮城) (4-3)
四日市高 9(2-1) 8 高知西高 (三重) (7-4) (高知)
花巻南高 6(1-1) 2 添上高 (岩手) (1-1) (奈良)
▽二回戦
新居浜東 (愛媛) 13(4-1) 6 井原高 (岡山)
福島女高 (福島) 7(4-1) 1 高志高 (福井)
栃木女高 (栃木) 8(4-2) 4 富山女高 (富山)
大垣南高 10(4-1) 1 北佐久農 (岐阜)
菊地農蚕 (熊本) 8(4-1) 3 室蘭清水 (北海道)
京都女高 (京都) 11(5-3) 8 羽咋高 (石川)
熊本市高 (熊本) 9(4-1) 1 湧谷高 (宮城)
高崎女高 (群馬) 9(2-1) 5 和洋女高 (秋田)
水海道二 (茨城) 7(5-2) 3 豊中高 (大阪)
山陽女高 (広島) 5(2-1) 3 山梨高 (山梨)
尼崎高 (兵庫) 8(4-1) 2 桜水商 (東京)
半田高 (愛知) 16(10-3) 4 花巻南高 (岩手)

▽三回戦
栃木女高 4(2-1) 3 新居浜東 (栃木) (2-2)
菊地農蚕 (熊本) 4(2-1) 3 高崎女高 (熊本)
静岡城北 8(3-1) 1 熊谷女高 (静岡)
熊本市高 12(6-1) 2 福島女高 (熊本)
京都女高 (京都) 9(3-2) 5 大垣南高 (京都)
水海道二 (茨城) 5(3-1) 1 有磯高 (富山)
高(茨城) 3(2-1) 0 富山高 (富山)
尼崎高 (兵庫) 5(2-0) 4 明善高 (兵庫)
半田高 (愛知) 6(4-2) 2 山陽女高 (広島)

善は後半9本のシュートが全部はずれてしまい、逆に尼崎は後半ゴール前でオープン気味の攻撃をみせたのが図に当たり9分、10分と連続ゲットして逆転しそのまま逃げ切った。菊地×高崎は菊地の攻撃力に一日の長があり、菊地の一応順当勝ち。菊地には強引なシュートが多く、じっくり攻めれば苦戦をせずにすんだはずだ。栃木と熱戦を演じた新居浜東の健斗は敢闘賞モノだった。

全国高校、来年は小倉で全国高体連ハンドボール部定例委員会では、昭和三十七年度(第十三回)全国高校ハンドボール選手権大会を小倉市(福岡県)で開催することに決定した。また、第十四回大会は山梨市(山梨県)に内定した。

熊本市高 2-2
京都女高 1-1
抽選 1-1
熊本市高 (熊本)

○：ベスト8の顔ぶれは順当だった。尼崎×明善はどちらも八傑に残れるだけの実力校だったが、明

善は後半9本のシュートが全部はずれてしまい、逆に尼崎は後半ゴール前でオープン気味の攻撃をみせたのが図に当たり9分、10分と連続ゲットして逆転しそのまま逃げ切った。菊地×高崎は菊地の攻撃力に一日の長があり、菊地の一応順当勝ち。菊地には強引なシュートが多く、じっくり攻めれば苦戦をせずにすんだはずだ。栃木と熱戦を演じた新居浜東の健斗は敢闘賞モノだった。

熊本市は泣くに泣けぬ敗戦だった。チーム力は熊本が一枚上だったが、京都はGK大久保がよく動き熊本の猛攻に耐えたのがよかった。京都は二回の延長とも先手をとられたが、二度ともHB岸田が殊勲のシュートを放って幸運をよんだ。四連勝を狙った熊本のスケールの大きい攻撃は印象的だった。

後記

男女とも福井と山形が初参加し、昨年よりチームが増えた。これで千葉と新潟が復活すれば全国都道府県でこの大会に参加していない県は七県だけとなる。

ハンドボール人口の底辺の拡大を物語るこれ以上のモノはなからう。

さて男子は中京商(推薦、愛知)対桜台高(愛知)と昨年同様の決勝となり、この大会三度目の愛知県同士の対決となった。ことしは桜台たろうという予想を裏切って中京商劇的な逆転に成功して3連勝。桜台の持つ通算六回にあと三回、五連勝にあと二つと迫った。中京商の優勝はその確実な基礎体力と基礎技術に最大因があった。これはともすれば理論に走る昨今の高校界にとって注目、そして反省すべきことであった。そして、そのうえに日ごろの練習によって培はれた気力が他校をしのいでいたのだから、その優勝もむしろ順当であらう。準優勝の桜台は昨秋以来中京との対戦ではほとんど勝っていないが、檜舞台で一敗地にまみれていたのは惜しまれる。その力において中京をしのぐといはれた桜台の敗戦も、僅かな気力の差が明暗を色分けたのではなからうか。このほか相変らず剛志鋭いところをみせた清水商(静岡)、それに名門桐生工(群馬)、新鋭熊本市商(熊本)らが水準の高い攻守を示し

**中京商基礎の確かさ示す
女子、身につけよスピード攻法**

ていた。また函館工(北海道)、盛岡一高(岩手)、塩山高(山梨)らの常連校はことしはとくに充実の布陣で好調を示し、なかでも盛岡一高の活躍は特筆されてよからう。早期敗退とはいえず兵庫京都女高(京都)に抽選のすえ敗れたのはかえすがえすも惜しまれる。昨秋の国体の半田×熊本の激闘の再戦を実現出来なかったのは残念だった。それだけに京都女高の健闘が光るワケだが、栃木女高(栃木)、北海道二高(茨城)らの名門チームがめだった。しかしこの両チームとも対半田戦はあまりにもお粗末で期待を裏切った。新進の菊地豊蚕(熊本)は力強いプレーを見せ将来を楽しませたが、逆に名門明善(福岡)や湧谷(宮城)は往時ほどの精彩を欠いていたようだ。一般に女子はスピード感が欠けており、特に遅攻を常用するチームが増えて来たような傾向はいただけない。国際試合の確報もある女子界の後続がこのようなことでは心細い。スピード攻法を一日も早く、一つでも多くのチームが身につけて欲しい。

一方、女子は半田高(愛知)が宿願の初優勝を飾り、第四回大会の桜台(男)、稲沢(女)に次いで愛知県は二度目の両タイトル獲得の偉業を挙げた。3連勝を狙う熊本市高(推薦・熊本)が敗れたため、準決勝、決勝は栗勝、半田独走の印象を受けたが、しかし

熊本市高、静岡城北高(静岡)などの実力は紙一重であった。とくに熊本は偉業寸前だけに気力の充実した好チームだったが、伏兵京都女高(京都)に抽選のすえ敗れたのはかえすがえすも惜しまれる。昨秋の国体の半田×熊本の激闘の再戦を実現出来なかったのは残念だった。それだけに京都女高の健闘が光るワケだが、栃木女高(栃木)、北海道二高(茨城)らの名門チームがめだった。しかしこの両チームとも対半田戦はあまりにもお粗末で期待を裏切った。新進の菊地豊蚕(熊本)は力強いプレーを見せ将来を楽しませたが、逆に名門明善(福岡)や湧谷(宮城)は往時ほどの精彩を欠いていたようだ。一般に女子はスピード感が欠けており、特に遅攻を常用するチームが増えて来たような傾向はいただけない。国際試合の確報もある女子界の後続がこのようなことでは心細い。スピード攻法を一日も早く、一つでも多くのチームが身につけて欲しい。

北海道二	13 (7-1-2)	4	京都女子
高(茨城)	7-1-2	4	高(京都)
【京都】	保戸本田崎川盛羽田木山	18	30
大藤稲岸川吉永丹奥八丸			
GK	B	FW	交代
昌辺倉田村川原上山き村			
【水海道】	鈴木渡横川田滝笠後香鈴木	27	21
水海道の順当勝ち。京都は試合運びではなかなか優れたものを持っていたが、シューターが吉川、永盛に片寄りすぎていたため巧者水海道のデフェンスにつけ込まれ攻撃を封じられた。逆に水海道はGKを除くスターティングメンバーが全員得点を記録するという対照をみせ楽勝した。水海道は三年ぶりの決勝進出。			
半田高	9 (5-1-0)	0	栃木女高
(愛知)	4-1-0	0	(栃木)
栃木の零敗は意外だった。これは半田のデフェンスのよさもあったが、連続して三本のノーマーケットシュートをライントクロスしてFWが自信を欠いてしまったのも見のさせない。			
【半田】	野藤松内島青川寿田恵合	27	18
水伊村森小木早加鶴加河			
GK	B	FW	交代
沼林藤沢孝雅			
【栃木】	柿小斎戸鈴木	19	25
板角穂			
S	T	反則	

一方の半田も立ち上がりは鋭さを欠いたが、8分LW早川が先制点をあげてからペースを取りもどし、最後は栃木の不調もあって一方的な結果になった。

▽決勝

半田の決勝進出は昨年に続き二度目。しかも、今年は男子が戦わずして愛知勢の優勝と決まっているだけに、両部門優勝を狙う半田の意気こみは格別で、慎重なうちに果敢な攻めっぷりだった。これに対して水海道は得意の出足を欠き、攻撃も凡ミスが多く、半田が自然優勢となって決勝戦には寂しい内容の試合となった。

【半田】野藤松内島木川寿田恵合
水伊村森小木早加鶴加河
GK B FW 交代
S T 反則
【半田】昌辺倉田村川原上山き村
鈴木渡横川田滝笠後香鈴木
27 18

地方だより

中京、半田敗れる

東海選手権

第13回東海選手権大会は九月九、十の両日、三重県四日市市で東海四県、四部門二十三チームが参加して行なわれた。高校男子は全国大会3連勝の中京商(愛知)が宿敵桜台(愛知)に1点差で敗れ、高校女子も全国優勝の半田高(愛知)が静岡城北高(静岡)に敗れる番狂わせがあった。なお高校女子では名門稲沢の復調がめだつた。

- ▽高校男子準決勝
中京商(愛知) 8-3 清水商(静岡)
- ▽三位決定戦
清水商 12(6-4) 7 御殿場高
- ▽決勝
桜台高 5(4-1) 4 中京商
- ▽高校女子準決勝
城北高(静岡) 7-6 半田高(愛知)
- ▽三位決定戦
半田高 14(6-8) 8 清水女高
- ▽決勝
静岡城北高 7(3-1) 6 稲沢高
- 静岡城北高の優勝は2回目

▽一般男子準決勝
桜丘会 16(10-5) 9 鶴ノ森ク(三重)

清商ク 13(8-3) 7 かがり火ク(岐阜)

▽決勝
桜丘会 12(6-5) 11 清商ク

▽三位決定戦
鶴ノ森ク 18-13 かがり火ク

▽一般女子(リーグ)
愛知紡績 17(5-1) 4 大垣商ク(愛知)

愛知紡績 14(7-2) 3 城北ク

城北クラブ、大垣商クラブは愛知紡績の2勝で優勝が決まったため両者二位となった。

熱意示す高山市

昭和四十年(第二十回)岐阜国体のハンドボール競技開催地に決まった高山市はこれまでハンドボールの正式なチームがなく、公式試合も開かれなかった。開催地に決まっただけは市協が中心となつて、PRをはじめ、九月十日に行なわれた市民体育祭で、市内の日校中と中山の間で公開試合が行われるなど、活潑な動きを示している。国体や全日本の開催でハンドボールへの関心と普及が急速に高まった例は多く、最近では水見市(富山)や水俣市(熊本)などがその好例、高山市の熱の入れようも早くもこれらに劣らぬものがある。

大崎、日体大に栄冠

関東選手権兼国体予選

第八回関東ハンドボール選手権兼第十六回国体関東地区予選会は九月九、十日横浜市蒔田公園、蒔田中学校グラウンドにて行なわれた。男子は大崎電気が、女子は日体大が優勝した。また国体関東地区代表には一般男子、大崎電気(東京)、全神奈川(神奈川)、全埼玉(埼玉)、桐生クラブ(群馬)の四チーム、一般女子は日体大、高校男子は墨田川高(東京)、桐生工高(群馬)、高校女子は水海道二高(茨城)がそれぞれ晴れの代表に決定した。

- ▽一般男子 一回戦
大崎電気 12-9 全埼玉
- 全茨城 14-9 全山梨
- 全神奈川 14-12 桐生ク
- 足利球友会 19-12 千葉ク
- ▽敗者復活戦
全埼玉 13-10 全山梨
- 桐生ク 18-9 千葉ク
- ▽二回戦
大崎電気 22-5 全茨城
- 全神奈川 15-12 足利球友会
- ▽敗者復活戦
桐生ク 17-9 全茨城
- 全埼玉 12-9 足利球友会
- ▽決勝

大崎電気 19(11-4) 6 全神奈川

▽一般女子 一回戦
栃木女高 7-5 高崎市女高

全茨城 8-5 全埼玉

日本体育大 14-3 山梨クラブ

▽二回戦
栃木女高 8(5-1) 4 全神奈川

OG 3(3-3) 5 全茨城

▽決勝
日本体育 9(7-2) 5 全茨城

▽決勝
日本体育 20(11-2) 5 栃木女高

▽高校男子 一回戦
墨田川高 21-7 佐原高

日川高 17-8 石橋高

石岡一高 5-4 鎌倉学園

桐生工高 14-9 浦和市立高

▽二回戦
墨田川高 14(7-1) 4 日川高

桐生工高 12(6-1) 7 石岡一高

▽高校女子 一回戦
山梨高校 7-5 高崎高校

水海道二高 10-8 桜水商高

平塚江南高 11-4 佐原女高

栃木女高 10-4 熊谷女高

▽二回戦
水海道二高 9(5-4) 7 山梨高校

▽決勝
栃木女高 15(9-1) 5 平塚江南高

水海道二高 8(6-3) 7 栃木女高

甲南大が優勝

第八回近畿地区大学体育大会ハ

ハンドボール競技は九月六、七の二日間、大阪学芸大池田グラウンドで行なわれた。今秋から一部昇格の新進桃山学院大が健闘して注目をあびたが、決勝は甲南大が守備陣の活躍で優勝した。

▽決勝
甲南大 11-7 桃山学院大

中国高校は男女とも山口

中国地区高校ハンドボール大会(兼国体予選)は九月四日、広島修道高グラウンドで広島、岡山、山口三県の代表校によってリーグ戦が行なわれた。男子では幡生工(山口)、女子では徳山高(山口)がそれぞれ優勝した。

▽男子リーグ
津山商(岡山) 6-5 修道高(広島)

幡生工(山口) 10-9 修道高(広島)

幡生工(山口) 6-4 津山商(岡山)

(順位)①幡生工②津山商③修道高

女子リーグ
徳山高(山口) 10-4 山陽女(広島)

井原高(岡山) 7-5 山陽女(広島)

徳山高(山口) 8-3 井原高(岡山)

(順位)①徳山高②井原高③山陽女

男子墨田川女子 水海道二

関東高校選手権

第七回関東高校選手権大会は、七月二十三日から四日間、茨城県笠間市で行なわれた。関東一都七県の予選を勝ち抜いた男子三十三、

女子三十一校が参加、全国高校選手権の各県代表もほとんど顔をそろえたので内容のある試合が続いたが、男子は墨田川高（東京）、女子は水海道二高（茨城）が優勝した。

▽男子準々決勝
 塩山高（山梨）11-3 佐原高（千葉）
 麻生高（茨城）11-5 土浦工（茨城）
 桐生工（群馬）11-10 日川高（山梨）
 墨田川（東京）14-2 前橋商（群馬）

▽準決勝
 桐生工 11 (5-6) 4 塩山高
 墨田川高 11 (4-7) 4 麻生高
 三位決定戦
 塩山高 12-9 麻生高

▽決勝
 墨田川高 12 (6-6) 11 桐生工
 墨田川高は初優勝

▽女子準々決勝
 栃木女（栃木）10-2 菊華高（東京）
 山梨高（山梨）9-4 水戸二（茨城）
 太田二（茨城）6-4 足利女（栃木）
 水海二（茨城）8-1 高崎市（群馬）

▽準決勝
 栃木女高 6 (2-1) 1 山梨高
 水海道二 8 (4-4) 1 1 3 太田二高
 三位決定戦
 山梨高 12-10 太田二高

▽決勝戦
 水海道二 10 (5-5) 2 4 栃木女高
 水海道二高は三度目の優勝

四日市市、員弁を降す
 三重県対抗ハンドボール大会は、八月六、七の両日松阪市第四小学校グラウンドで六チームが参加して行なわれたが四日市市が攻守に安定した強味をみせて優勝した。

▽準決勝
 四日市市 20-5 三重郡員弁 19-6 津市
 四日市市 25-19 員弁 郡

山口、長崎など四県大会
 第一回山口、福岡、熊本、長崎四県対抗ハンドボール大会は、六月十一日、長崎県佐世保市の佐世保市立体育館で室内制（男子のみ）によって行なわれた。その結果、福岡、山口、熊本が2勝1敗の同成績となったが、得点の多い福岡クラブ（福岡）が初優勝した。

熊本教員 21 (11-10) 2 6 佐世保ク
 熊本 11 (1-1) 4 4 (長崎)
 山口ク 10 (9-1) 4 4 福岡ク
 (山口)
 福岡ク 22 (14-8) 1 1 6 佐世保ク
 熊本教員 13 (8-5) 3 7 山口ク
 熊本 13 (5-1) 4 4 5 熊本教員
 福岡ク 13 (8-5) 1 1 5 熊本教員

山口ク 19 (8-1) 4 6 佐世保ク
 (順位) ①福岡クラブ2勝1敗 (得点43)
 ②熊本教員クラブ2勝1敗 (39)
 ③山口クラブ2勝1敗

④佐世保クラブ3戦3敗 (18)
 ○……意欲的な活動を続けている九州球界があらたに開いた大会だが、勝率を分け合った上位三チームが攻守に洗練されたプレーをみうかがえた。

○……そのトリオの中でレナウン工業は実のところ戦力は一番落ちる。ちょっとスタートで出遅れたため、差がついてしまったというのが真相だが会社もチームの連中もいっこう気がしていない。な

○……主将でGKの山田嬢は日本大で鳴らした巧者。昨年の全日本総合で準優勝したときのGKぶりをご記憶の読者もあるはず。新チームの要としてはうってつけのキャリアの持ち主だし、FWの穴田嬢は富山女高のLWとして昨年の国体に出場している。それに桐原、関、椎名の三嬢は茨城の名門太田二高。剣持、小泉の両嬢は清水商の出身。そして日立女高出の和田嬢がCFとして活躍、控えの選手層に不安を感じる以外は堂々たる布陣である。

○……それに監督の塩川安賢君はついこの間まで最強芝浦工大のFWとして活躍した若手のバリバリ。新生チームにふさわしいスタッフである。全日本総合に初出場したこのチームへの批評は「小粒な感じ」だった。

しかし塩川監督の抱負は「ことしは一年生、ゆっくりに研究して、来年はなんとしても優勝戦線に顔を出す」と小粒どころか大きい。大きい。

レナウン工業の巻
 ⑦レナウン工業の巻



(写真はレナウン工業チーム)

話題のチーム
 ⑦レナウン工業の巻

○……日本の女子ハンドボールを語るとなるとまず愛知紡績。その愛知紡績にいつまでも女王の座を預けっぱなしではならないと、今年は三つの有力チームが名乗りをあげた。すでに御承知の太平洋デパート（熊本）、大崎電気

欄

全日本に

予選制度を

投

ことし、倉敷で行なわれた全日本選手権のスコアを見ると、一、二回戦は非常に一方的な試合が多い。

全日本の二回戦で30点も差が開いてしまったり、ダブルスコアがその大半を占めるというのは、あまりいただける話ではない。

それというのも、大会参加がオープン制度であるからだと思う。大会の創設のころは、普及という意味で、これは確かに当を得た策だったのであるが。現在のようにチ

ームも増えて、なおそのままの制度を続けたいことは納得できない。

大会参加数が増えればよいというものはないだけに一考が望まれよう。

そこで、考えられるのは予選制度である。参加チームの内容を厳選することは、それだけ大会の権威と内容を高めるものであり、強いては球界の発展につながる。

とくに男子部門では次の大会からでもその実現を切望するものである。大会参加のワケは前大会の上位四チームを推薦とし、その他は十六チーム、合計二十チームが妥当な数ではなからうか。うち訳けは全日本学生の上位四校、その他は、全国をいくつかのブロックに分け、予選で十一チームを

選び、開催県(地元)から一チーム出場にすればよいと思う。

そうすると各地区では現役の学生チームを交えて、相当激しい予選が展開されるだろうし、本大会は当然レベルの高い試合が続くことになる。地方のクラブ、チームにとつては全日本への道を閉ざされ、中央のレベルに接する機会を失うことになるかもしれない。

地方選手権や県大会の数を増やし、まず地方の水準向上を心がけるのが先決のように私は感じる。

女子はチームが増えたといっても、まだこの大会で20を越した経験がないのだから当然現行維持でよい。

(東京・小原晋)

問 今年の全日本高校優勝校(中京商と半田高)の各試合のシート数と反則数をお知らせ下さい。(兵庫・G.T生)

答 Sはシートを表はします。

反	25	16	37	30	28
得	20	11	6	13	13
【中京商】	S	34	15	16	20
【半田高】	S	30	22	22	27
【南女高女二】	32	11	12	18	26
【南陽北木海】	16	6	7	9	12
【花山城栃水】	30	22	22	27	19

答 関西では西宮球場、関東では国立競技場の施設を使っています。しかし現在では早慶定期戦が毎年恒例としているほかはとくに行なわれてはいないようです。

最初のナイト・ゲームははっきりした記録がありませんが、昭和二十八年に西宮での第八回関学対早大定期戦ではないかと思えます。これまでに行なわれた主なナイトゲームはこのほか全関西対全九州対抗(西宮)などがあります。

問 国体におけるハンドボール競技の順位決定方法につきお知らせください。(静岡・工藤 誠)

答 国体のハンドボール競技は四部門(一

編集後記

▽:ことしの球界はいろいろなことがあり多忙だった。初の海外遠征、東京オリンピックさく減問題、女子社会人チームの誕生などである。こんなに活発な動きがあったのは球史始まって以来のこと、いそがしいなかにもうれしい話である。

▽:本誌も第7号を迎えようやく軌道に乗ったのも、全国のハンドボール・ファンの応援によるものと感謝しています。より良いものにするために、いっそうの声援をお願いします。

▽:本号から『ヨーロッパ遠征から学んだもの』を連載することにし、高嶋、荒川両兄に執筆していただきました。諸兄諸姉のご参考になれば幸いです。それに女子社会人チームの誕生に努力していただいた諸兄のプロフィルの続き物を取りあげました。女子チームは年々増加の一途、わたしたちは心からその発展を祈って止みません。全国の女子高校生の方は大いにハンドボールに力を入れ、卒業後は社会人チームに飛び込んでもらいた

質問かんげい
ハンドボールに関することなら技術問題、記録なんでも結構です。宛て先は住所、氏名(匿名可)、年令明記のうえ、ハガキで東京都千代田・神田駿河台、日本ハンドボール協会内機関誌編集部質疑応答係まで。

▽:十月下旬に日体大が韓国に遠征し、来年二月にはユーゴ女子チームが来日の子定です。オリンピック種目からさく減されたといえ、これからの球界はいろいろな話題があります。ハンドボールが一本立ち出来たのもハンドボール愛好者の努力の結果です。感謝します。(ふく)

定評ある!

日本ハンドボール協会公認球



最大の生産能力 最高の技術を有する!

新発売!!

皮革(18枚貼)製

ミカサボール



日本ハンドボール協会公認球

シムレス ボール

ELEVEN号

ご用命は、もよりの

タチカラ株式会社

運動具店へ (271) 3318~9. (841) 6868

日本ハンドボール協会公認球

一番広く使はれて居る!
セッター

サービス部
新宿区新宿2丁目電停前
TEL (341) 2979・1016



望月運動用品KK

東京都墨田区横川橋4丁目6
TEL 本所 (622) 0746

最高の品質を誇る **ミカドハンドボール**



日本ハンドボール協会公認球



ミカド商会

東京・豊島・巣鴨・7丁目1696

TEL (941) 2635・6592

日本ハンドボール協会公認球

ピコック印ボール

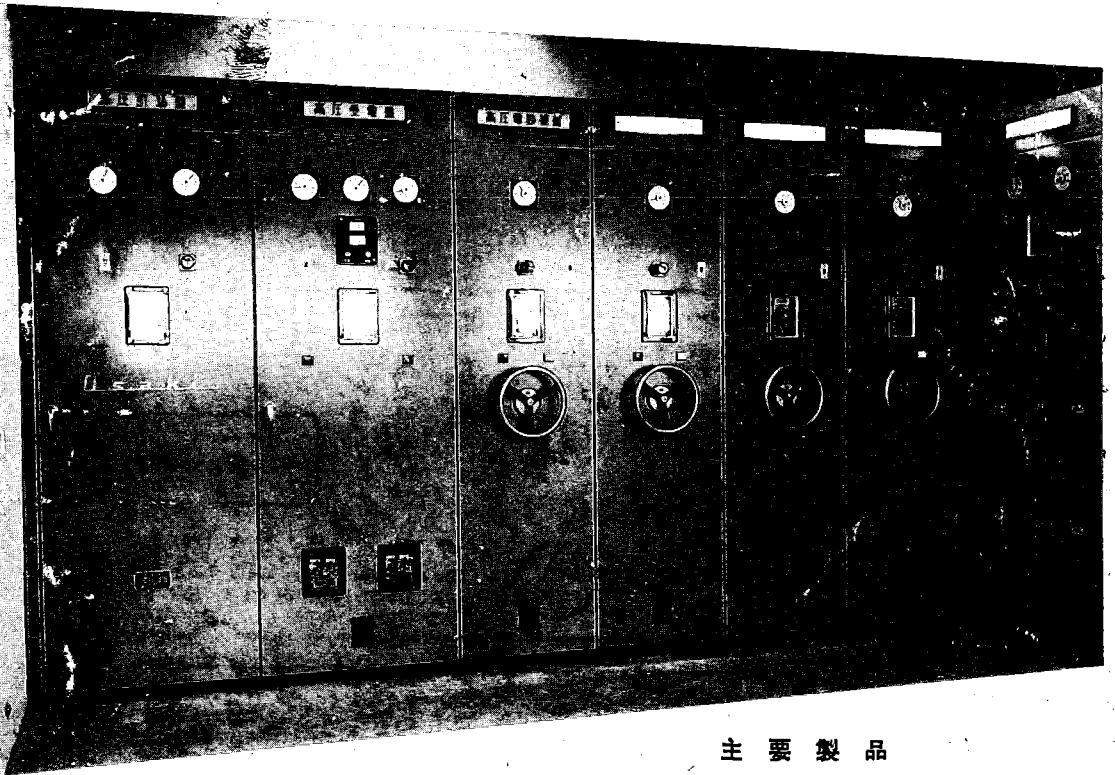


前田運動具製作所

東京・江東区大島町5-538

TEL (681) 9197・9198

歴史を誇る 大崎の電力設備



主要製品

本社変電室
キュービクル型受配電盤

各種積算電力計、テレメーター
計器用変成器、標準変成器
安全ブレーカー、ノーヒューズブレーカー
誘導型自動電圧調整器
静止型自動電圧調整器
各種試験用機器
配電盤・分電盤・動力制御盤

